

区政概要

令和8年版

名古屋市

名古屋市章



明治40年、市を表象するき章を定めようとして、各方面に意匠を求めるなど検討が行われましたが、同年10月の市会で㊦印を用いることに決議されました。

この㊦印は、尾張徳川家で合印（あいじるし）として使用されていた「丸に八の字」印といわれています。

以来、㊦マークは、名古屋市が将来に向かって限りなく発展する象徴として、市旗を始め市バス、地下鉄の車両などにも図案化して使用され、幅広く市民に親しまれています。

※合印 一般的には、他者と区別するための印。丸八印は尾張藩の略章（正式の家紋は葵巴紋）というべきもの。

名古屋市の木

クスノキ



昭和47年8月、7種類の候補木の中から市民による人気投票の結果、クスノキが「市の木」に選ばれました。

クスノキは名古屋の風土になじみ深い木で、熱田神宮、名古屋城などには樹齢数百年の巨木があります。また、鶴舞公園や中村公園でも主木となっており、古くから市民に親しまれてきました。

豪壮な姿、豊かな緑、つよい生長力は、まさに名古屋の都市景観にふさわしく、緑化推進の主役をになっています。

名古屋市の花

ユリ



昭和25年4月の「緑の週間」にちなんで、新聞社と共催で一般公募、選定したもの。

応募の花の種類は、ユリ、バラ、サクラ、キク、カーネーションなど100種類以上にのぼりましたが、1位は「ユリ」であったのでこれを市の花として選定しました。

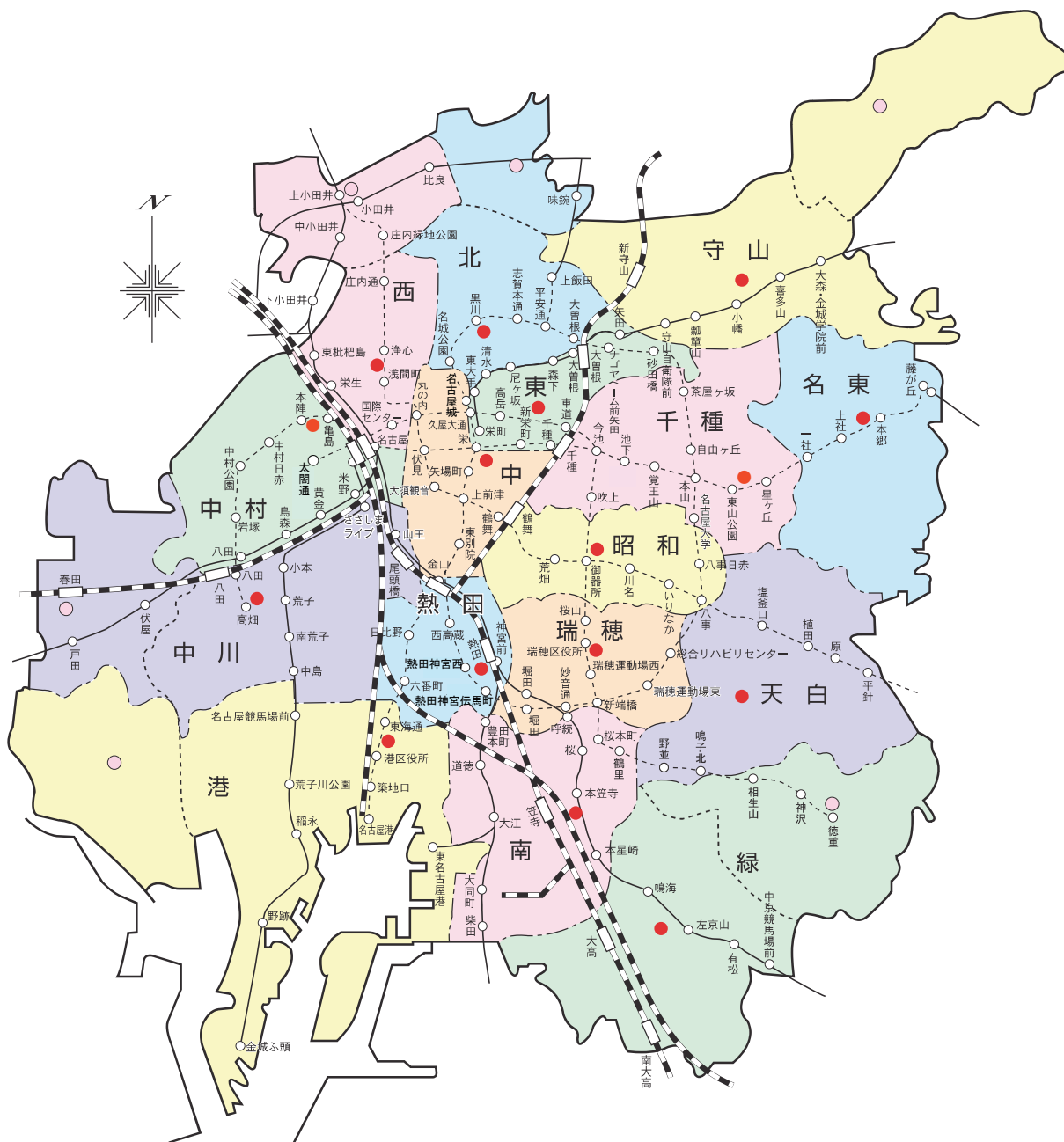
目 次

1	市勢概況	
(1)	16 区の概要図	1
(2)	市域拡張の変遷図	2
(3)	市域拡張の変遷図（港区詳細図）	3
(4)	区域の移りかわり	4
(5)	区の面積・世帯・人口の推移	7
(6)	区の特徴	11
2	区役所庁舎等概況	
(1)	区役所及び支所の位置	27
(2)	区役所を中心とした区内の最長距離	32
(3)	区役所及び支所庁舎建物一覧	33
3	区役所行政機構等概況	
(1)	区役所の組織	34
(2)	区役所の事務分掌	37
(3)	区役所職員定員表	49
(4)	課別職員現在員	50
(5)	支出費目別職員現在員	51
(6)	区長等名簿	53
(7)	区関係委員会及び各種団体代表者一覧	55
4	区関係諸統計	
(1)	各区の人口調	56
(2)	戸籍事務取扱状況	57
(3)	住民基本台帳事務取扱状況	58
(4)	印鑑登録事務取扱状況等	59
(5)	諸証明・閲覧件数	60
(6)	区役所文書の取扱と公示件数	61
(7)	法律相談事項別件数	62
(8)	国民健康保険実施状況	63
(9)	被保護世帯と人員	64
(10)	介護保険実施状況	65
(11)	小・中学校学年別児童・生徒数	66
(12)	土地利用状況	67

5	区関係諸規程	
(1)	区長以下代決規程	68
(2)	区長委任規則	115
(3)	名古屋市教育委員会の区長に対する事務委任規則	118
(4)	社会福祉事務所長委任規則	119
(5)	名古屋市社会福祉事務所処務規程	122
(6)	区における総合行政及び区の特性に応じたまちづくりの推進に関する規則	123
(7)	区における総合行政及び区の特性に応じた まちづくりの推進に関する実施細目の制定について	126
(8)	区役所講堂及び区役所支所講堂使用規則	129
6	政令指定都市の概要	
(1)	区役所所在地等	137
(2)	政令指定都市区政担当課	143
7	各区のシンボルマーク	145
8	区の木・区の花・区之歌等	147

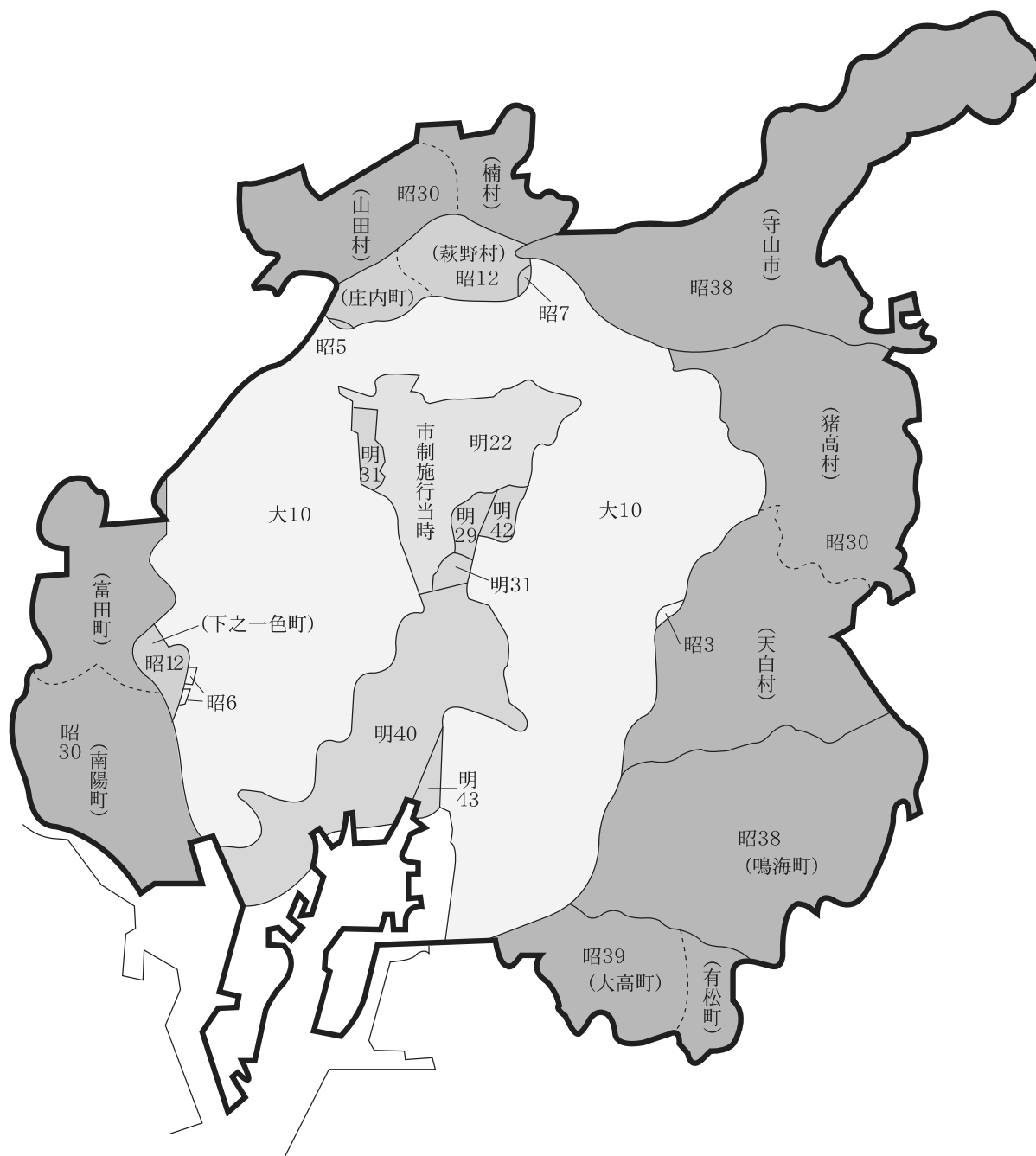
1 市 勢 概 況

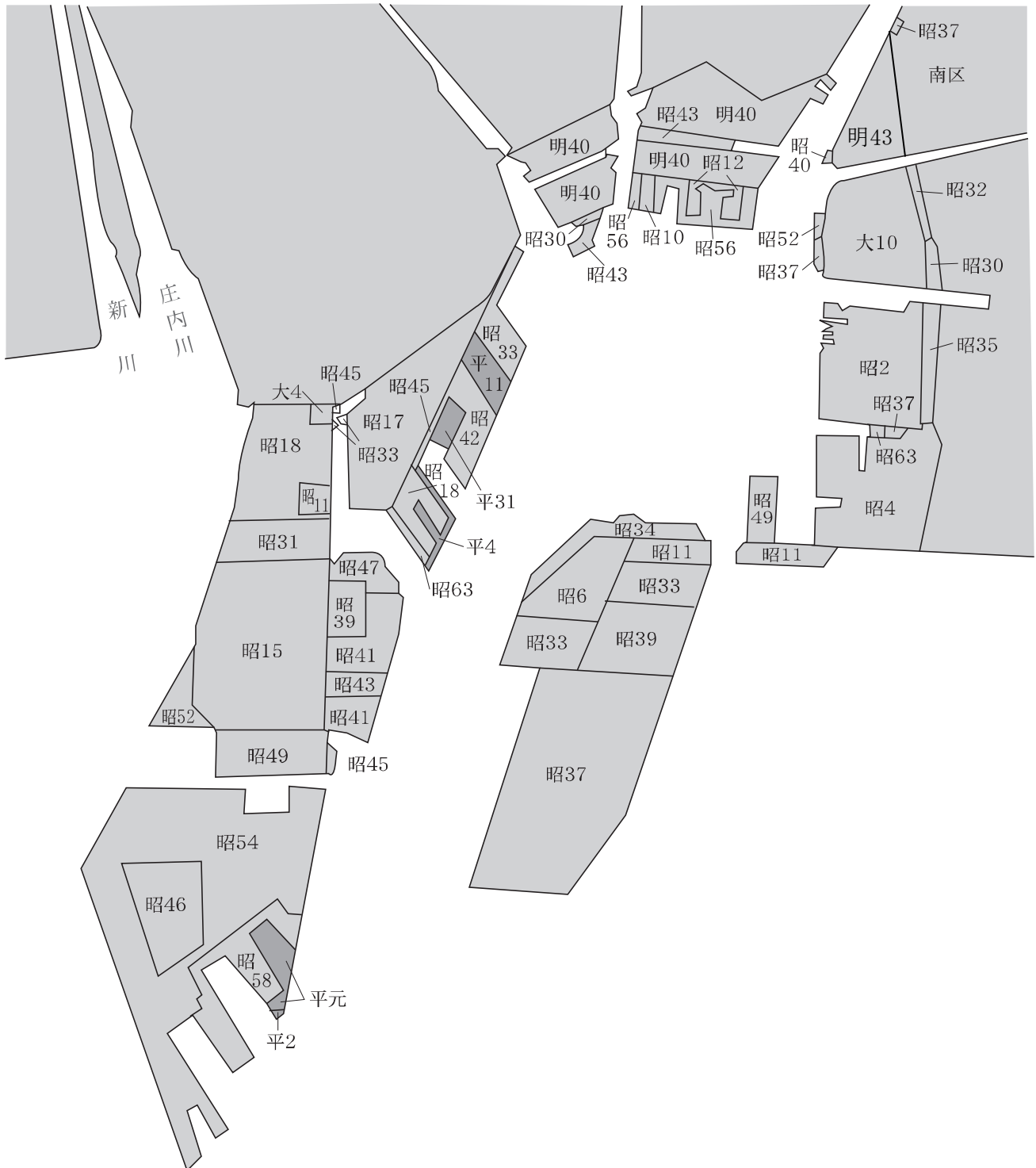
(1) 16 区 の 概 要 図



凡 例		J R		市 界
		私 鉄		区 界
		地下鉄		支所所管区域
		区役所		支 所

(2) 市域拡張の変遷図





(4) 区 域 の 移 り か わ り

明治22年10月1日市制施行後、明治40年熱田町の編入により一躍人口、面積が増加したので、市民の利便と事務処理の便宜を図るため、翌41年4月1日全市を東、西、中、南の4区に分けて区役所を設けた。

昭和12年3月隣接3カ町村の合併を機に本市の急激な発展に伴う近代都市としての能率化を図るため、同年10月市制施行記念日を期して、従来の4区に新しく6区を増し、全市の区域を千種、東、西、中村、中、昭和、熱田、中川、港、南の10区とした。昭和19年さらに北、栄、瑞穂の3区が増区され13区となったが、戦災により焦土と化した中区、栄区を戦後に合併、中区とし、全市を12区に減区した。昭和38年守山市および愛知郡鳴海町を編入し、それぞれ守山区および緑区とし、全市を14区とした。翌昭和39年12月緑区に隣接する知多郡有松町および大高町を編入し、これを緑区の一部に加えた。ついで昭和50年2月千種区、昭和区の区域を変更しあらたに名東区、天白区を設置し、全市を16区とした。

年 月 日	経 過
明治 11. 12. 20	名古屋区（郡区町村編制法）
22. 10. 1	市制施行
29. 3. 23	愛知郡御器所村大字前津小林を編入
31. 8. 22	愛知郡那古野村及び古沢村大字東古渡を編入
40. 6. 1	愛知郡熱田町を編入——熱田中瀬町121番戸に市役所出張所を置く
40. 7. 16	愛知郡小碓村大字熱田新田東組、千年、熱田前新田、稲永新田を編入
40. 11. 9	千年及び熱田前新田地先公有水面埋立地を編入（築地）
41. 4. 1	4区制の実施——東区、西区、中区、南区
42. 10. 1	愛知郡千種町の一部及び御器所村の一部を中区の区域に編入
43. 3. 5	南区千年地先公有水面埋立地を編入（東築地）
大正 4. 12. 1	南区稲永新田地先公有水面埋立地を編入（鴨浦）
10. 2. 20	愛知郡笠寺村大字笠寺及び本星崎地先公有水面埋立地を南区の区域に編入（大江）
10. 8. 22	隣接16カ町村の編入——愛知郡千種町、東山村、西春日井郡清水町、杉村、六郷村を東区、愛知郡中村、西春日井郡枇杷島町、金城村を西区、愛知郡御器所村、愛知町、常盤村を中区、愛知郡呼続町、小碓村、荒子村、八幡村、笠寺村を南区の区域に編入——各町村役場を区役所分所として存置
昭和 2. 12. 1	南区本星崎地先公有水面埋立地を編入（昭和町）
3. 3. 15	愛知郡天白村大字八事を中区広路町、南区弥富町の区域に編入
4. 7. 15	南区鳴尾町字神徳地先公有水面埋立地を編入（船見町）
5. 6. 15	西春日井郡庄内町大字堀越を西区枇杷島町の区域に編入
6. 1. 1	名古屋港東突堤端公有水面埋立地を編入（潮見町）
6. 7. 15	愛知郡下之一色町の一部を南区東起町の区域に編入
7. 12. 1	西春日井郡萩野村大字辻村を東区上飯田町、下飯田町の区域に編入
7. 12. 10	東区千種町字車田を中区に変更
10. 6. 1	南区西倉町及び海岸通地先公有水面埋立地を編入（海岸通6丁目）
11. 4. 1	名古屋港内第十号埋立地西公有水面埋立地を編入（汐止町）
11. 12. 1	南区潮見町及び船見町地先公有水面埋立地を編入（潮見町、船見町）
12. 3. 1	隣接3カ町村の編入——愛知郡下之一色町を南区、西春日井郡庄内町、萩野村を西区の区域に編入
12. 6. 15	海岸通地先公有水面埋立地を編入（海岸通3丁目）
12. 10. 1	10区制の実施——千種区、東区、西区、中村区、中区、昭和区、熱田区、中川区、港区、南区
12. 11. 1	海岸通地先公有水面埋立地を編入（海岸通3丁目）
15. 2. 15	名古屋港内第十号埋立地西南公有水面埋立地を編入（空見町、潮風町、汐止町）
17. 3. 26	名古屋港内第十号公有水面埋立地を編入（潮風町）

年 月 日	経 過
昭和 18. 4. 10	名古屋港内第十号公有水面埋立地を編入（潮風町）
18. 4. 10	名古屋港内庄内川左岸地先公有水面埋立地を編入（汐止町）
19. 2. 11	13区制の実施——北区、栄区、瑞穂区の3区を増区
20. 11. 3	12区制の実施——栄区を減区し、中区に編入
21. 4. 15	千種区、東区、北区、西区、中村区、中区、昭和区、熱田区、中川区の一部区域変更
22. 8. 1	中区南外堀町12、13丁目を東区に変更
24. 6. 20	中村区野田町字経田、柳下、二反畑の一部を中川区に変更
26. 1. 12	中区上名古屋町字北野を北区に変更（26. 5. 1より名城町、城北新町に町名変更）
28. 10. 15	南区豊田町、元禄通、上通町、中通町、豊本通、蒲田町、太郎町の一部を瑞穂区に変更
30. 4. 5	愛知郡猪高村を千種区、天白村を昭和区の区域に編入——旧村役場に区役所支所を新設
30. 8. 1	港区大江町東側地先公有水面埋立地を編入（大江町）
30. 8. 1	港区築地町地先公有水面埋立地を編入（築地町）
30. 10. 1	西春日井郡楠村を北区、山田村を西区、海部郡富田町を中川区、南陽町を港区の区域に編入——旧町村役場に区役所支所を新設
31. 7. 13	千種区、東区、北区、西区、中区、昭和区、瑞穂区、熱田区、港区、南区、の一部区域変更
31. 12. 15	港区汐止町及び空見町地先公有水面埋立地を編入（汐止町）
32. 9. 14	港区大江町地先公有水面埋立地を編入（大江町）
33. 1. 15	中区、昭和区、瑞穂区、熱田区、南区の一部区域変更
33. 8. 1	港区潮見町8番地先公有水面埋立地及び31番地先公有水面埋立地を編入（潮見町）
33. 9. 20	港区一州町地先及び潮風町地先公有水面埋立地を編入（一州町及び潮風町）
33. 12. 9	港区汐止町地先及び潮風町地先公有水面埋立地を編入（汐止町及び潮風町）
34. 6. 1	港区潮見町地先公有水面埋立地を編入（潮見町）
35. 6. 1	港区昭和町地先公有水面埋立地を編入（昭和町）
36. 11. 1	千種区、昭和区の一部区域変更（植園町）
37. 4. 17	港区大江町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認（大江町）
37. 4. 17	港区木場町と南区豊田町に囲まれた公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認（豊田町）
37. 4. 17	港区昭和町及び船見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認（船見町）
37. 4. 17	港区潮見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認（潮見町）
37. 11. 1	千種区、昭和区の一部区域変更（植田山）
38. 2. 15	守山市の区域を編入——守山区設置、旧守山市役所を区役所、旧志段味出張所を区役所支所として新設 13区制
38. 4. 1	愛知郡鳴海町の区域を編入——緑区設置、旧鳴海町役場を区役所として新設 14区制
39. 2. 5	港区潮見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認（潮見町）
39. 2. 5	港区空見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認（空見町）
39. 5. 1	千種区、昭和区の一部区域変更（名大敷地）
39. 12. 1	知多郡有松町、大高町を緑区の区域に編入——旧町役場に区役所支所を新設
40. 7. 7	港区東築地町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（東築地町）
41. 3. 30	東区、中区の一部区域変更（久屋町）
41. 7. 1	港区空見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（空見町）
42. 4. 24	港区潮風町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（潮風町）
42. 12. 1	知多郡上野町と緑区との境界変更処分による一部区域変更
43. 1. 30	港区西倉町、南倉町と北倉町にはさまれた公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認（西倉町及び南倉町）
43. 6. 13	中川区、港区の一部区域変更（富田町、南陽町）
43. 12. 2	港区築地町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（築地町）
43. 12. 2	港区空見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（空見町）
45. 2. 16	港区潮風町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（潮風町）
45. 2. 16	港区空見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（空見町）

年 月 日	経 過
昭和 45. 2. 16	港区汐止町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（汐止町）
45. 12. 1	港区空見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（金城ふ頭二丁目）
47. 2. 1	愛知郡東郷町と緑区、愛知郡豊明町と緑区との境界変更処分による一部区域変更
47. 6. 21	港区空見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（空見町）
48. 4. 24	熱田区白鳥町、田中町及び木之免町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認（田中町及び木之免町）
49. 1. 21	緑区有松支所及び大高支所を廃止
49. 8. 1	港区船見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（船見町）
49. 12. 10	港区空見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（空見町）
50. 2. 1	16区制の実施——千種区、昭和区の区域を変更し、新たに名東区、天白区を設置、 新庁舎完成までの間旧猪高支所を名東区役所として、旧天白支所 を天白区役所として新設
51. 2. 1	愛知郡日進町と天白区との境界変更処分による一部区域変更
52. 2. 10	港区空見町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（空見町）
52. 2. 10	港区大江町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（大江町）
52. 1. 23	千種区、名東区の一部区域変更（平和ヶ丘南部）
53. 9. 23	緑区、天白区の一部区域変更（野並東部）
54. 4. 30	港区金城ふ頭二丁目地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入 （金城ふ頭一丁目、二丁目、三丁目）
54. 4. 10	守山区、名東区の一部区域変更（藤森西部）
54. 8. 1	南区大江川の公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認
55. 6. 15	緑区、天白区の一部区域変更（相生南部）
55. 9. 7	中村区、中川区の一部区域変更（八田東部）
55. 10. 26	千種区、名東区の一部区域変更（大廻間）
56. 9. 20	港区港町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認（港町）
56. 9. 20	千種区、名東区の一部区域変更（平和公園）
56. 9. 20	東区、北区の一部区域変更（北三工区）
56. 10. 25	千種区、東区の一部区域変更（千代田橋）
57. 8. 29	名東区、天白区の一部区域変更（植田山）
57. 10. 9	中川区、港区の一部区域変更（富永、中島新町西部）
57. 10. 15	港区南郊運河の公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認
58. 4. 14	港区金城ふ頭三丁目地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入（金城ふ頭三 丁目）
59. 1. 15	千種区、東区の一部区域変更（大幸南）
59. 1. 15	瑞穂区、南区の一部区域変更（菊住）
59. 10. 22	千種区、東区の一部区域変更（砂田橋）
61. 3. 25	港区港北運河の公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認
63. 4. 26	港区潮風町の公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入
63. 4. 26	港区船見町の公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入
63. 11. 20	千種区、東区の一部区域変更（鍋屋上野）
平成 元. 11. 27	港区金城ふ頭三丁目地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入
2. 8. 24	港区金城ふ頭三丁目地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入
4. 4. 24	港区潮風町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入
7. 9. 1	日進市と天白区との境界変更処分による一部区域変更
7. 12. 2	名東区、天白区の一部区域変更（高針原）
8. 12. 25	港区南郊運河の公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認
9. 1. 18	名東区、天白区の一部区域変更（植田中央）
9. 10. 23	港区及び中川区小碓運河の公有水面埋立地のあらたに生じた土地の確認
11. 4. 26	港区潮風町の公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入
13. 9. 15	千種区、名東区の一部区域変更（猪子石原）
15. 7. 29	尾張旭市と守山区との境界が判明でない地点の境界決定
16. 10. 9	緑区、天白区の一部区域変更（神ノ倉）
23. 10. 15	名東区、天白区の一部区域変更（高針荒田）
平成 31. 4. 19	港区潮風町地先公有水面埋立地のあらたに生じた土地の編入

(5) 区の面積・世帯・人口の推移

明治22年10月市制が施行されたときの本市の面積は13.34km²、世帯は48,000世帯余、人口は157,000人余にすぎなかった。その後市勢の発展にともない10数回におよぶ市域の拡張が行われたが、このうち大正10年の隣接16ヵ町村の編入、昭和30年の隣接6ヵ町村編入と昭和38年の守山市・鳴海町の編入は特筆すべきものである。この結果、現在本市の面積は、市制施行当時の24.5倍、世帯は23.6倍、人口は14.7倍になり、今日の本市をみるにいたった。この区別の推移は次のようである。

		M22. 10. 1	M40. 6. 1	M40. 7. 16	M41. 4. 1	T10. 8. 22	S12. 3. 1	S12. 10. 1
全市計	面積 (km ²)	13. 34	17. 54	31. 98	37. 28	149. 56	160. 09	160. 11
	世帯数 (世帯)	48, 049	79, 284	80, 438	81, 788	129, 638	240, 200	245, 200
	人口 (人)	157, 496	343, 468	350, 046	359, 680	622, 781	1, 165, 000	1, 186, 900
千種区	面積 (km ²)							16. 43
	世帯数 (世帯)							18, 700
	人口 (人)							90, 400
東 区	面積 (km ²)				6. 35	27. 35	29. 46	13. 10
	世帯数 (世帯)				18, 074	28, 605	57, 100	39, 400
	人口 (人)				79, 145	135, 625	274, 700	190, 700
西 区	面積 (km ²)				4. 57	18. 34	26. 43	17. 65
	世帯数 (世帯)				20, 679	26, 750	44, 800	37, 300
	人口 (人)				91, 057	128, 915	224, 100	180, 700
中村区	面積 (km ²)							12. 52
	世帯数 (世帯)							22, 400
	人口 (人)							108, 500
中 区	面積 (km ²)				6. 00	28. 26	29. 18	7. 77
	世帯数 (世帯)				34, 303	49, 052	74, 000	39, 600
	人口 (人)				150, 632	235, 203	355, 600	191, 700
昭和区	面積 (km ²)							21. 73
	世帯数 (世帯)							32, 200
	人口 (人)							155, 800
熱田区	面積 (km ²)							7. 08
	世帯数 (世帯)							18, 500
	人口 (人)							89, 400
中川区	面積 (km ²)							21. 15
	世帯数 (世帯)							15, 100
	人口 (人)							73, 000
港 区	面積 (km ²)							24. 53
	世帯数 (世帯)							8, 500
	人口 (人)							41, 300
南 区	面積 (km ²)				20. 36	75. 61	75. 02	18. 15
	世帯数 (世帯)				8, 732	25, 231	64, 300	13, 500
	人口 (人)				38, 846	123, 038	310, 600	65, 400

M22. 10. 1 市制施行 世帯、人口は「名古屋市史政治編第3巻」による。

M40. 6. 1 愛知郡熱田町を編入

M40. 7. 16 愛知郡小碓町の一部を編入

M41. 4. 1 4区制の実施 面積、世帯、人口は写真図説「明治の名古屋」による。

T10. 8. 22 隣接16ヵ町村の編入

S12. 3. 1 3ヵ町村の編入 世帯、人口は推計 昭和12. 3. 1市公報

S12. 10. 1 10区制の実施 世帯、人口（昭和12. 10. 1内閣統計局発表）は推計

		S19. 2. 11	S20. 11. 3	S25. 10. 1	S30. 10. 1	S35. 10. 1	S38. 4. 1	S40. 10. 1
全市計	面積 (km ²)	161. 73	161. 73	164. 35	250. 07	250. 81	312. 32	325. 19
	世帯数 (世帯)	287, 106	153, 370	226, 597	284, 451	371, 347	451, 870	495, 200
	人口 (人)	1, 344, 100	597, 941	1, 030, 635	1, 336, 780	1, 591, 935	1, 832, 044	1, 935, 430
千種区	面積 (km ²)	14. 69	14. 69	16. 14	36. 02	36. 02	36. 47	36. 02
	世帯数 (世帯)	23, 699	10, 500	19, 183	27, 356	39, 909	49, 439	52, 587
	人口 (人)	106, 666	41, 383	86, 399	124, 054	158, 710	180, 176	189, 673
東 区	面積 (km ²)	8. 36	8. 36	7. 92	7. 68	7. 68	7. 68	7. 68
	世帯数 (世帯)	25, 219	15, 257	16, 456	18, 585	21, 940	24, 060	23, 564
	人口 (人)	113, 588	42, 079	72, 614	84, 273	92, 923	94, 552	90, 131
北 区	面積 (km ²)	10. 47	10. 47	11. 50	17. 57	17. 57	17. 57	17. 57
	世帯数 (世帯)	18, 295	10, 266	17, 131	24, 107	34, 188	40, 871	45, 306
	人口 (人)	85, 946	40, 102	78, 242	111, 711	146, 799	168, 673	176, 650
西 区	面積 (km ²)	8. 67	8. 67	8. 62	17. 57	17. 57	17. 57	17. 57
	世帯数 (世帯)	27, 726	16, 814	22, 168	25, 706	31, 479	36, 085	39, 528
	人口 (人)	125, 997	67, 207	103, 986	128, 049	144, 755	151, 364	162, 621
中村区	面積 (km ²)	16. 50	16. 50	16. 42	16. 19	16. 19	16. 19	16. 19
	世帯数 (世帯)	28, 215	22, 160	30, 898	35, 707	45, 142	50, 804	52, 439
	人口 (人)	122, 034	90, 211	140, 067	164, 846	189, 541	198, 459	199, 685
栄 区	面積 (km ²)	5. 82						
	世帯数 (世帯)	20, 525						
	人口 (人)	87, 912						
中 区	面積 (km ²)	4. 42	10. 24	9. 18	11. 22	11. 22	11. 22	11. 22
	世帯数 (世帯)	23, 673	9, 124	19, 613	21, 941	25, 210	25, 048	25, 123
	人口 (人)	107, 050	34, 263	87, 128	108, 955	113, 966	113, 169	103, 099
昭和区	面積 (km ²)	10. 95	10. 95	11. 10	34. 36	34. 36	33. 91	34. 36
	世帯数 (世帯)	22, 225	14, 015	19, 568	26, 028	35, 049	39, 085	44, 641
	人口 (人)	101, 614	56, 252	87, 936	121, 877	144, 166	153, 595	164, 486
瑞穂区	面積 (km ²)	11. 08	11. 08	11. 23	10. 01	10. 01	10. 01	11. 11
	世帯数 (世帯)	18, 590	13, 478	19, 927	23, 942	30, 484	33, 453	35, 356
	人口 (人)	89, 035	53, 403	89, 074	108, 545	127, 064	132, 317	135, 308
熱田区	面積 (km ²)	7. 94	7. 94	8. 10	9. 15	9. 15	9. 15	9. 15
	世帯数 (世帯)	22, 504	8, 327	13, 691	16, 169	20, 459	22, 726	22, 812
	人口 (人)	106, 223	32, 153	61, 592	74, 678	87, 065	90, 508	89, 574
中川区	面積 (km ²)	19. 66	19. 66	19. 61	32. 01	32. 01	32. 01	32. 00
	世帯数 (世帯)	22, 141	14, 947	17, 995	22, 517	28, 859	33, 577	41, 321
	人口 (人)	105, 377	63, 188	86, 154	111, 722	133, 875	152, 573	171, 287
港 区	面積 (km ²)	25. 50	25. 50	25. 78	39. 41	40. 15	41. 35	41. 74
	世帯数 (世帯)	11, 362	6, 456	11, 117	16, 211	21, 617	25, 442	27, 198
	人口 (人)	66, 824	27, 446	51, 419	77, 698	96, 830	110, 232	113, 575
南 区	面積 (km ²)	17. 67	17. 67	18. 75	18. 88	18. 88	18. 88	18. 88
	世帯数 (世帯)	22, 932	12, 026	18, 850	26, 182	37, 011	44, 924	47, 603
	人口 (人)	125, 834	50, 254	86, 024	120, 372	156, 241	176, 653	186, 755
守山区	面積 (km ²)						34. 01	34. 01
	世帯数 (世帯)						17, 326	19, 485
	人口 (人)						68, 272	79, 469
緑 区	面積 (km ²)						26. 30	37. 69
	世帯数 (世帯)						9, 030	18, 237
	人口 (人)						41, 501	73, 117

S19. 2. 11 13区制の実施 人口は昭和19.2.22内閣統計局の実施した人口調査による。

S20. 11. 3 12区制の実施 世帯、人口は昭和20.11.1の人口調査による。

S25. 10. 1 面積、世帯、人口は総理府統計局「昭和25年国勢調査報告第七巻」による。

S30. 10. 1 世帯、人口は昭和30.10.1の国勢調査による確定値であり、面積は総理府統計局「昭和30年国勢調査報告第五巻」による。

S35. 10. 1 世帯、人口は昭和35.10.1の国勢調査による確定値であり、面積は総理府統計局「昭和30年国勢調査報告第五巻」によるものにその後の編入分を加えたものである。

S38. 4. 1 昭和38.2.15守山市(＝守山区)、昭和38.4.1鳴海町(＝緑区)の編入 14区制の実施

S40. 10. 1 世帯、人口は昭和40.10.1の国勢調査による確定値であり、面積は総理府統計局「昭和40年国勢調査報告第四巻」による。

		S45. 10. 1	S50. 2. 1	S50. 10. 1	S55. 10. 1	S60. 10. 1	H2. 10. 1	H7. 10. 1
全市計	面積 (km ²)	325. 66	326. 25	326. 25	327. 56	327. 91	326. 37	326. 37
	世帯数 (世帯)	575, 987	621, 012	634, 794	705, 323	730, 666	792, 080	841, 083
	人口 (人)	2, 036, 053	2, 082, 473	2, 079, 740	2, 087, 902	2, 116, 381	2, 154, 793	2, 152, 184
千種区	面積 (km ²)	36. 02	18. 47	18. 51	18. 59	18. 55	18. 24	18. 24
	世帯数 (世帯)	65, 494	57, 186	57, 593	63, 722	63, 667	64, 829	65, 546
	人口 (人)	213, 362	173, 598	168, 861	166, 837	163, 762	156, 478	148, 847
東 区	面積 (km ²)	7. 68	7. 68	7. 68	7. 68	7. 70	7. 72	7. 72
	世帯数 (世帯)	24, 041	23, 838	24, 275	25, 417	26, 888	27, 498	28, 225
	人口 (人)	82, 693	75, 560	74, 376	70, 046	71, 506	69, 032	66, 096
北 区	面積 (km ²)	17. 57	17. 57	17. 57	17. 61	17. 62	17. 55	17. 56
	世帯数 (世帯)	51, 717	55, 700	57, 017	59, 848	60, 674	63, 267	66, 983
	人口 (人)	179, 803	182, 767	182, 610	179, 266	175, 827	172, 559	171, 582
西 区	面積 (km ²)	17. 57	17. 57	17. 57	18. 00	18. 00	17. 90	17. 90
	世帯数 (世帯)	46, 379	47, 403	48, 069	49, 736	48, 841	51, 631	54, 158
	人口 (人)	172, 677	167, 665	165, 179	151, 348	144, 032	141, 384	139, 106
中村区	面積 (km ²)	16. 19	16. 19	16. 19	16. 31	16. 31	16. 32	16. 32
	世帯数 (世帯)	56, 351	55, 590	56, 650	56, 118	54, 230	55, 535	57, 628
	人口 (人)	193, 604	180, 968	179, 313	163, 978	153, 126	146, 379	140, 519
中 区	面積 (km ²)	11. 22	11. 22	11. 22	9. 52	9. 52	9. 36	9. 36
	世帯数 (世帯)	24, 564	23, 075	24, 188	25, 471	27, 354	29, 513	30, 719
	人口 (人)	86, 256	73, 126	73, 226	66, 562	67, 278	65, 833	63, 006
昭和区	面積 (km ²)	34. 36	11. 53	10. 87	10. 92	10. 92	10. 93	10. 93
	世帯数 (世帯)	62, 719	43, 040	42, 827	44, 562	43, 328	45, 653	47, 570
	人口 (人)	200, 513	122, 840	122, 602	112, 912	108, 434	106, 857	104, 293
瑞穂区	面積 (km ²)	11. 11	11. 11	11. 11	11. 36	11. 36	11. 23	11. 23
	世帯数 (世帯)	38, 648	38, 706	39, 442	42, 410	41, 338	42, 577	42, 979
	人口 (人)	133, 588	127, 345	125, 885	120, 679	115, 122	111, 360	106, 299
熱田区	面積 (km ²)	9. 15	9. 15	9. 15	8. 13	8. 13	8. 16	8. 16
	世帯数 (世帯)	22, 939	20, 680	21, 902	21, 900	22, 482	24, 541	25, 980
	人口 (人)	82, 897	73, 801	72, 506	65, 553	65, 021	65, 794	65, 055
中川区	面積 (km ²)	32. 00	32. 00	32. 00	32. 40	32. 40	32. 01	32. 01
	世帯数 (世帯)	47, 290	52, 279	51, 974	58, 110	60, 104	66, 690	72, 937
	人口 (人)	181, 342	188, 509	187, 396	191, 450	193, 004	200, 111	206, 678
港 区	面積 (km ²)	42. 21	42. 80	42. 80	45. 37	45. 72	45. 57	45. 57
	世帯数 (世帯)	32, 580	32, 963	36, 254	41, 012	44, 190	48, 971	52, 706
	人口 (人)	125, 392	129, 926	130, 740	132, 148	140, 956	148, 185	150, 538
南 区	面積 (km ²)	18. 88	18. 88	18. 88	18. 56	18. 56	18. 47	18. 47
	世帯数 (世帯)	52, 343	50, 666	52, 775	54, 368	55, 301	57, 576	58, 795
	人口 (人)	190, 413	181, 864	179, 311	163, 768	162, 968	159, 709	154, 275
守山区	面積 (km ²)	34. 01	34. 01	34. 01	33. 83	33. 82	34. 02	34. 01
	世帯数 (世帯)	26, 070	33, 366	33, 724	40, 542	42, 987	47, 601	52, 256
	人口 (人)	99, 295	119, 874	120, 694	133, 953	139, 824	144, 897	148, 919
緑 区	面積 (km ²)	37. 69	37. 69	37. 69	37. 94	37. 92	37. 86	37. 86
	世帯数 (世帯)	24, 852	32, 176	33, 324	44, 253	48, 704	57, 553	65, 257
	人口 (人)	94, 218	115, 471	119, 126	145, 872	159, 555	178, 919	190, 936
名東区	面積 (km ²)		18. 59	19. 40	19. 67	19. 70	19. 46	19. 46
	世帯数 (世帯)		26, 918	26, 244	43, 946	50, 630	57, 339	61, 139
	人口 (人)		81, 228	89, 088	124, 087	142, 146	152, 519	151, 763
天白区	面積 (km ²)		21. 79	21. 60	21. 67	21. 68	21. 57	21. 57
	世帯数 (世帯)		27, 426	28, 536	33, 908	39, 948	51, 306	58, 205
	人口 (人)		87, 931	88, 827	99, 443	113, 820	134, 777	144, 272

- S45. 10. 1 世帯、人口は昭和45. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は総理府統計局「昭和45年国勢調査報告第三巻」による。
- S50. 2. 1 16区制の実施
- S50. 10. 1 世帯、人口は昭和50. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は総理府統計局「昭和50年国勢調査報告第三巻」に港区の編入分を加えたものである。
- S55. 10. 1 世帯、人口は昭和55. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は総理府統計局「昭和55年国勢調査報告第二巻」による。
- S60. 10. 1 世帯、人口は昭和60. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は「昭和60年全国都道府県市区町村別面積調」による。
- H 2. 10. 1 世帯、人口は平成2. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は「平成2年全国都道府県市区町村別面積調」による。
- H 7. 10. 1 世帯、人口は平成7. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は「平成6年全国都道府県市区町村別面積調」による。ただし、緑区・名東区に境界未定があるため、2区及び全市については、「平成3年同面積調」によった。

		H12. 10. 1	H17. 10. 1	H22. 10. 1	H27. 10. 1	R2. 10. 1	R8. 4. 1
全市計	面積 (km ²)	326.45	326.45	326.43	326.45	326.50	326.45
	世帯数 (世帯)	897,932	955,851	1,021,227	1,058,497	1,122,103	1,188,651
	人口 (人)	2,171,557	2,215,062	2,263,894	2,295,638	2,332,176	2,345,093
千種区	面積 (km ²)	18.24	18.24	18.23	18.18	18.18	18.18
	世帯数 (世帯)	69,458	74,450	80,411	85,028	86,281	96,877
	人口 (人)	148,537	153,118	160,015	164,696	165,245	172,647
東 区	面積 (km ²)	7.72	7.72	7.70	7.71	7.71	7.71
	世帯数 (世帯)	30,466	33,659	38,562	41,311	45,762	51,143
	人口 (人)	65,791	68,485	73,272	78,043	84,392	90,471
北 区	面積 (km ²)	17.56	17.56	17.55	17.53	17.53	17.53
	世帯数 (世帯)	69,101	71,782	74,641	75,428	79,169	81,387
	人口 (人)	167,640	166,441	165,785	163,579	162,956	159,956
西 区	面積 (km ²)	17.90	17.90	17.89	17.93	17.93	17.93
	世帯数 (世帯)	58,367	62,008	66,133	70,078	74,257	80,288
	人口 (人)	140,364	143,104	144,995	149,098	151,082	153,929
中村区	面積 (km ²)	16.32	16.32	16.31	16.30	16.30	16.30
	世帯数 (世帯)	60,253	63,659	68,877	66,039	74,793	83,071
	人口 (人)	134,955	134,576	136,164	133,206	138,599	146,232
中 区	面積 (km ²)	9.36	9.36	9.38	9.38	9.38	9.38
	世帯数 (世帯)	34,428	41,558	50,000	53,533	63,159	75,736
	人口 (人)	64,669	70,738	78,353	83,203	93,100	108,398
昭和区	面積 (km ²)	10.93	10.93	10.94	10.94	10.94	10.94
	世帯数 (世帯)	50,211	51,538	53,782	55,108	55,059	56,895
	人口 (人)	105,289	105,001	105,536	107,170	107,599	109,028
瑞穂区	面積 (km ²)	11.23	11.23	11.23	11.22	11.22	11.22
	世帯数 (世帯)	44,484	46,490	47,826	48,629	51,641	53,825
	人口 (人)	104,410	105,358	105,061	105,357	108,332	109,737
熱田区	面積 (km ²)	8.16	8.16	8.13	8.20	8.20	8.20
	世帯数 (世帯)	26,444	28,211	30,098	31,884	33,791	36,160
	人口 (人)	62,625	63,608	64,719	65,895	66,957	68,109
中川区	面積 (km ²)	32.01	32.01	32.03	32.02	32.02	32.02
	世帯数 (世帯)	78,636	85,371	92,639	95,495	101,148	104,712
	人口 (人)	209,982	215,809	221,521	220,281	220,728	216,351
港 区	面積 (km ²)	45.67	45.67	45.69	45.64	45.69	45.64
	世帯数 (世帯)	56,003	58,687	59,274	61,713	63,885	61,328
	人口 (人)	151,614	151,872	149,215	146,745	143,715	131,985
南 区	面積 (km ²)	18.47	18.47	18.46	18.46	18.46	18.46
	世帯数 (世帯)	59,427	59,803	61,757	61,064	62,606	66,487
	人口 (人)	147,912	143,973	141,310	136,935	134,510	131,963
守山区	面積 (km ²)	33.99	33.99	33.99	34.01	34.01	34.01
	世帯数 (世帯)	57,232	61,978	67,087	69,687	74,939	78,394
	人口 (人)	154,460	161,345	168,551	172,845	176,587	175,653
緑 区	面積 (km ²)	37.86	37.85	37.84	37.91	37.91	37.91
	世帯数 (世帯)	73,938	79,702	87,672	95,210	101,566	104,961
	人口 (人)	206,864	216,545	229,592	241,822	248,802	247,125
名東区	面積 (km ²)	19.42	19.42	19.44	19.45	19.45	19.45
	世帯数 (世帯)	65,032	68,219	71,894	73,922	75,958	78,306
	人口 (人)	153,103	157,125	161,012	164,080	164,755	161,508
天白区	面積 (km ²)	21.61	21.62	21.62	21.58	21.58	21.58
	世帯数 (世帯)	64,452	68,736	70,574	74,368	78,089	79,081
	人口 (人)	153,342	157,964	158,793	162,683	164,817	162,001

- H12. 10. 1 世帯、人口は平成12. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は「平成11年全国都道府県市区町村別面積調」による。ただし、緑区・名東区に境界未定があるため、2区及び全市については、「平成3年同面積調」によった。
- H17. 10. 1 世帯、人口は平成17. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は「平成16年全国都道府県市区町村別面積調」による。
- H22. 10. 1 世帯、人口は平成22. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は「平成22年全国都道府県市区町村別面積調」による。
- H27. 10. 1 世帯、人口は平成27. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は「平成27年全国都道府県市区町村別面積調」による。
- R 2. 10. 1 世帯、人口は令和2. 10. 1の国勢調査による確定値であり、面積は「令和2年全国都道府県市区町村別面積調」による。
- R 8. 4. 1 世帯、人口は令和7. 10. 1の国勢調査結果の本市独自集計速報値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものであり、面積は「令和8年全国都道府県市区町村別面積調」による。

(6) 区 の 特 色

千 種 区 <創設 昭和 12 年 10 月 1 日>

	創設当時	令和 8.4.1 現 在
面 積 (k [㎡])	16.43	18.18
世 帯 数	18,700	96,877
人 口	90,400	172,647
人口密度(人/k [㎡])	5,502	9,497
学 区 数		15



▲千種区役所仮設庁舎

千種区は、昭和 12 年、10 区制の施行により東区から分れて誕生した。その後、昭和 30 年に愛知郡猪高村を編入したが、同地域のほとんどが昭和 50 年 2 月、16 区制の実施に伴い名東区として独立分離し、現在の区域に至っている。

区の西部は、平坦な地形で、地下鉄の東山線と桜通線が結節する今池を中心に飲食店が多く、昼夜を問わず賑わっている。

中央部の池下、覚王山から東山にかけては緩やかな起伏の丘陵地であり、古くからの住宅地として閑静なたたずまいをみせている。また、タイ王国から寄贈された仏舎利を安置するために創建された日泰寺、大正から昭和初期にかけて建設された揚輝荘、寺院など多くの歴史的建造物が点在している。

東北部は、矢田川河川敷を利用した小原橋緑地、香流川自転車道、ふれあい橋、地域のふれあい交流の場としての香流橋地域センターなどが設置され、生活基盤の充実とともに人間味あふれたまちづくりがされている。

東部は、約 400 ヘクタールの自然豊かな「なごや東山の森」が広がり、「人と自然をつなぐ懸け橋へ」をテーマに再生をすすめている東山動植物園、墓地と公園の要素を調和させた平和公園、千種スポーツセンター、千種図書館がある。また、名古屋大学を始め多くの高校・大学などがあり、文教地区にふさわしい環境をつくりだしている。

区内には花の名所として、千種公園（ユリ）、茶屋ヶ坂公園（アジサイ）があるほか、区の木であるハナミズキが所々に植えられている。また、山崎川、すいどうみち緑道、天満緑道など憩いの散策路では四季を通して訪れる人がたえない。地域の交流の場、ふれあいの場としては、千種・田代・上野・見付・春岡・東山・大和・千石・星ヶ丘・高見・内山コミュニティセンター、富士見台会館、自由ヶ丘会館、香流橋地域センターがあり、広く区民に活用されている。

文化面においては、弥生時代の創建といわれる高牟神社、眠り弁天で有名な桃巖寺、織田信長の父・織田信秀が築城した末森城址の他、精神修養の場であった旧昭和塾堂など、貴重な文化資産が残されている。また、千種区の名所を紹介するみちくさマップも 5 コース設定され、それぞれに千種区の歴史や魅力を語るのに欠かせない史跡等を見ることができる。

千種区将来ビジョン・あじさいプラン（千種区区政運営方針）の基本目標に“住みたいまち 住みやすいまち 千種区 ～暮らしやすさを実感できるまちをめざして～”を掲げ、「地域で支え合い、安心・安全に暮らせるまち」「安心して子育てができ、子どもや若者が健やかに成長できるまち」「誰もがいきいきと健康で安心して暮らせるまち」「魅力と活力にあふれ、誰もがまちの魅力を語れるまち」「快適な都市環境とを感じるまち」「信頼される区役所づくり」を推進するため、区民・事業者・行政が連携、協働した取り組みを進めている。

現在、新庁舎建設のため、令和 5 年 1 月より仮設庁舎にて業務を行っている。

東 区 <創設 明治 41 年 4 月 1 日>

		創設当時	令和 8.4.1 現 在
	面 積 (k㎡)	6.35	7.71
	世 帯 数	18,074	51,143
	人 口	79,145	90,471
	人口密度(人/ k㎡)	12,464	11,734
	学 区 数		9



▲東区役所

東区は、明治 41 年 4 月、名古屋市に初めて区制が施かれた際、広小路通の北側のうち御幸本町から東側を区域とし、藩政時代の武家屋敷の町に、その空地を利用した軽工業地区、街道筋の商業・住宅地区を中心に誕生した。その後、大正 10 年 8 月の隣接 5 ヶ町村の合併により、人口は 13 万人余、面積は約 4 倍となった。この頃から、矢田・大幸地区には電機工場・製陶工場などが進出し、それまでの田園風景から一変して大工業地域に変貌した。その後の商工業の発展はめざましく、昭和 11 年には人口 27 万人台に達した。

こうした中で、昭和 12 年 10 月には、従来の東半分にあたる千種・東山地域が千種区として、同 19 年 2 月には、北部の杉村・六郷地域が北区として、それぞれ独立し、ほぼ現在の東区に近い形ができあがった。

東区は、桜通・国道 41 号・19 号等の主要幹線道路、地下鉄東山線・名城線・桜通線、JR 中央本線、名鉄瀬戸線、基幹バス等の交通機関を持ち、快適な居住性を誇っている。西南部は、錦通・桜通を中心として中区と共に商業ビジネス地域を形成し、経済活動の拠点としての役割を担っている。また、中心部はおおむね閑静な住宅地、東部には多数の教育施設があり、さらに矢田川に沿った地域は高層住宅が立ち並んでいる。

東区は、藩政時代の武家屋敷を中心として発展したことから、伝統ある学校、尾張藩にまつわる旧跡、尾張徳川家の菩提寺である建中寺を始め由緒ある神社・仏閣が多い地域である。徳川園は、尾張藩の江戸戸山屋敷跡から発掘された庭石や木曽川流域の山中から産出する巨石をダイナミックに操り平成の世の大名庭園として平成 16 年にリニューアルされ、園内にある尾張徳川家ゆかりの徳川美術館・蓬左文庫と一体で近世武家文化を世界に誇る歴史文化拠点として生まれかわった。

また、明治以降の近代的な洋風建築が集まり今も当時の面影を残す白壁・主税・榎木地区は、市の町並み保存地区に指定され、大正 11 年創建で荘厳な偉容を見せる旧名古屋高等裁判所庁舎も市政資料館として保存・公開され、都市の雑踏を忘れさせる情緒的な香りを漂わせている。この町並み保存地区に隣接する榎木町に「日本の女優第 1 号」として知られる川上貞奴の屋敷を「文化のみち二葉館」として創建時の姿に移築復元し公開している。さらに、平成 19 年には「文化のみち榎木館」（旧井元為三郎邸）も加わり、名古屋城から徳川園にいたる「文化のみち」の拠点施設となっている。

毎年初夏の筒井町・出来町天王祭には、市の民俗文化財になっている伝統の山車や祭囃子が街中で繰り広げられ、夜店などが軒を連ねての昔ながらの祭の風景が今も受け継がれている。

大幸南のバンテリンドームナゴヤではプロ野球や各種イベントが開催され、名古屋の名所になっている。

その他、区内ではガイドウェイバス「ゆとりーとライン」、文化小劇場・図書館・スポーツセンター等の複合施設「カルポート東」、栄公園「オアシス 21」などがあり、新しい息吹と伝統が調和する活気あるまちづくりに向けて一層の努力が続けられている。

東区将来ビジョンにおいて、「ひとが支え合い、災害に強く、安心・安全で快適に暮らせるまち」「誰もがいきいきと健康に暮らし、活躍できるまち」「歴史・文化などを生かした魅力にあふれるまち」の 3 つのまちの姿を掲げ、その実現に向けて、各事業に取り組んでいる。

北 区 <創設 昭和 19 年 2 月 11 日>

		創設当時	令和 8.4.1 現 在
	面 積 (k m ²)	10.47	17.53
	世 帯 数	18,295	81,387
	人 口	85,946	159,956
	人口密度(人/k m ²)	8,208	9,125
	学 区 数		19



▲北区役所

名古屋市に市制が施行された明治 22 年 10 月当時、現在の北区の地域は西春日井郡に属し、金城村・杉村・清水町・六郷村・萩野村・川中村・如意村・味鋺村に分かれていた。明治 39 年には味鋺村・如意村が合併し、西春日井郡楠村となった。大正 10 年、金城村が西区に、杉村・清水町・六郷村が東区に編入された。昭和 8 年に萩野村・川中村が合併し萩野村となり、昭和 12 年に西区に編入された。

昭和 19 年 2 月、13 区制の施行により、東区と西区の各一部をあわせて北区が誕生した。

その後、東区と中区の一部を編入し、また昭和 30 年には西春日井郡楠村が名古屋市に合併、本区に編入され、現在の北区の区域が形づくられた。

本区域は庄内川・矢田川等河川に恵まれ、古くから人が住んでいた。尾張藩の時代になって、御用水沿岸に染色等が、多治見・瀬戸に近い地理的条件から大曾根地域で陶器の絵付等が起り、大正・昭和にかけて大規模な工場生産へと発展した。金属・機械器具等の製造業も盛んになり、市北部の工業地帯を形成するまでに至ったが、昭和 40 年代に入り、産業構造の大きな変化に伴って大規模工場が郊外に移転し、現在では北区の全事業所のうち、その大半を中小企業が占めている。産業の中心として発展してきた繊維業は衰微したが、その土壌から「名古屋型友禅」が生まれた。なお名古屋友禅は国の伝統的工芸品の指定を受けている。

昭和 30 年以降、楠地区に市営住宅が建設され、昭和 31 年には市内最大の公団住宅（現在の都市再生機構賃貸住宅。以下「UR 賃貸住宅」という。）として志賀・鳩岡団地が誕生した。昭和 40 年代に入り、工場移転跡地に市営・県営・UR 賃貸住宅の住宅団地が次々と建設された。現在、北区の公営・UR 賃貸住宅数は、市 16 区中最多である。

区内には、国道 41 号・19 号・302 号、名古屋高速道路・名古屋第二環状自動車道といった幹線道路の他に JR 中央線、名鉄瀬戸線・小牧線、地下鉄名城線・上飯田線等公共交通機関が通じ、交通結節点である大曾根・黒川などはその利用者でにぎわい、商業・サービス業が盛んである。

区の中央部を庄内川、矢田川が東西に流れており、これらの河川敷には、サイクリングロードなどが整備され、自然に触れあえる場として市民に親しまれている。その他、名城公園、志賀公園、楠公園などの公園や御用水跡街園、庄内用水緑道といった散策路も整備され、水と緑が豊かな憩いの場として活用されている。

さらに、志賀公園に隣接する地区には「クオリティライフ 21 城北」があり、保健・医療・福祉の総合エリアとして活用されている。

北区役所では、愛知学院大学と地域社会の発展に寄与することを目的とした包括連携協定を締結し、まちづくり、地域防災等幅広い分野において相互に協力している。UR 都市機構との包括連携協定では、町内会への加入促進、高齢者施策や子育て支援、地域防災対策など身近な地域課題への対応を図っている。また、令和 4 年 4 月に北区に移転した名古屋造形大学とも連携して取組みをすすめている。

令和 6 年度には、令和 10 年度までの中長期的な視点に立ってめざすべき区の姿と施策の方向性を示す「コスモスビジョン（北区将来ビジョン）」を策定し、「笑顔が満開！のまち」をキャッチフレーズに「魅力と誇りに満ち、笑顔いっぱいの未来に！～Let's smile～」 「誰もがいきいきと健康で、いつも笑顔で暮らせるまちに！～Keep on smiling～」 「安心・安全・快適で、笑顔がいっぱいのまちに！～Protect your smile～」の 3 つの将来像を掲げ、区民のみなさまとともにさまざまな取組みをすすめている。また、「スマイル・スピーディ・セキュリティ」を心がけた窓口対応など、親しまれ信頼される区役所づくりに取り組んでいる。

西 区 <創設 明治 41 年 4 月 1 日>

		創設当時	令和 8. 4. 1 現 在
	面 積 (k m ²)	4. 57	17. 93
	世 帯 数	20, 679	80, 288
	人 口	91, 057	153, 929
	人口密度(人/ k m ²)	19, 925	8, 585
	学 区 数		19



▲西区役所

西区は、名古屋市に初めて 4 区制が施行された明治 41 年 4 月に誕生した。その後、隣接町村の編入や増区による区域の変更などがあり、昭和 30 年 10 月の山田村合併により、現在の区域となった。

区の中央部を庄内川が流れ、その南部は、慶長の名古屋城築城とともに発展し、住民はもとより寺社、橋、さらには町名に至るまで名古屋の地に移した「清須(きよす)越(ごし)」は、西区の町づくりの基礎となった。築城とほぼ同時に堀川も開削され、川沿いには当時の町名も多くあったが、住居表示の実施等により消えていった。しかし、数多くの史跡や往時をしのぶ町並みは残されており、特に堀川西岸の「四間道(しけみち)」地区と庄内川右岸の「中小田井」地区は市の町並み保存地区に指定されている。西区の 6 つの史跡散策路のうち、美濃路散策コースにある八坂神社では長寿延命と豊作祈願の祭が行われ、胴回り 10m 高さ 5m の大提灯と、高さ 20m の山竿に提灯が揺れる様子は、まことに壮観である。また、城下町散策コースの円頓寺商店街では、各商店が手作りで趣向を凝らした「七夕まつり」が盛大に行われている。また、古い民家の屋根や軒下にあげられている小さな社、「屋根神さま」は全国的にも珍しいものである。伝統産業として、尾張七宝・尾張仏具・革工芸・製靴・製菓・名古屋黒紋付染・名古屋扇子・名古屋提灯・名古屋仏壇・名古屋友禅・和風などが発達してきたが、近年、住居区域の広がりや産業活動の変化等により、区外へ移転したり消えてゆくものもある。しかし、すぐれた職人技術は今もなお生きており、後世に伝えていく活動が進められている。

西区では、こうした伝統産業の職人や商店街、トヨタ産業技術記念館、ノリタケの森、四間道地区などを結ぶ『ものづくり文化の道』を展開し、地域の魅力を再発見するとともに人とモノのネットワークを再構築することにより、地域の活性化を図る取り組みを行っている。

文化・スポーツ面では、西生涯学習センターや山田地区会館において、様々な講座が開かれる他、19 学区中 18 学区にコミュニティセンターが整備され、レクリエーション活動やサークル活動などに気軽に利用されている。枇杷島スポーツセンターは 1 年を通して利用され、区民のスポーツ交流の場となっている。また、市民の身近な文化活動の拠点施設として西図書館との複合施設である西文化小劇場があり、多くの市民に利用されている。

庄内川以北では、地下鉄 3 号線(鶴舞線)と名鉄犬山線が相互乗り入れしている上小田井駅を中心に、住宅や店舗の建設などが進められ、名古屋北西部の「交流拠点」としてめざましく発展している。

また、庄内川沿いの「水と緑と太陽」をテーマに整備された庄内緑地には、ボート池やサイクリングコース・大噴水などがあり、四季を通じて市民が訪れ、憩いの場として賑わっている。

平成 17 年 5 月には山田支所が改築され、山田図書館、講堂、ヘリコプター緊急離着陸場、防災倉庫を備えた、文化拠点・防災拠点としての役割を併せ持った施設として業務を開始している。また、平成 22 年 1 月に西図書館・西文化小劇場の南に完成した西区役所等複合施設には、西区役所、西保健センターに加え西區在宅サービスセンターが併設され、福祉・教育・文化の拠点として市民に利用されている。

平成 21 年度より、西区はみんなで持ち合う、分け合うという意味の名古屋ことば、「も〜やっこ」を合言葉として、区民の皆さまとともに、安心・安全で快適な魅力あるまちづくり、健康でいきいきと暮らし、支えあい、ふれあう地域づくりを進めている。

中 村 区 <創設 昭和 12 年 10 月 1 日>

		創設当時	令和 8.4.1 現 在
	面 積 (k m ²)	12.52	16.30
	世 帯 数	22,400	83,071
	人 口	108,500	146,232
	人口密度(人/k m ²)	8,666	8,971
	学 区 数		18



▲中村区役所

中村区は、昭和 12 年 10 月の 10 区制の実施に伴い、中区と西区の一部を分離して創設された。区名は、愛知郡に属していた当時の旧中村の地が、その区域の半分以上を占めていたことから命名された。

中村区は市の西部に位置しており、西は庄内川をはさんで海部郡大治町に接している。また、東は堀川を境に中区と、南は J R 関西線・近鉄線を境に中川区と、北は J R 東海道線・名鉄線を境に西区と、それぞれ接している。人口は昭和 40 年頃の約 20 万人をピークに減少を続けていたが、近年は上昇に転じている。

区内は、東部の都心地域、中・西部の商業・住宅地域の二つに大きく分けることができる。

東部は、名古屋駅を中心としたビジネス街・商店街・地下街や青果水産物の民間市場などからなり、名古屋の経済活動の中心的役割を担っている。また、国際交流施設「名古屋国際センター」もあり、国際都市名古屋のシンボルの一つとなっている。

近年、名古屋駅東側では J R ゲートタワー、J P タワー名古屋、大名古屋ビルディングなど高層ビル群が建設され、現在は名古屋駅西側も含め、将来のリニア中央新幹線の開業や駅整備を見据えた活気に満ちたまちづくりが進んでいる。また、名古屋駅南側に位置し、平成 29 年 10 月にまちびらきを行った「ささしまライブ」には、オフィス、ホテル、コンベンションホール及び商業施設からなるグローバルゲートをはじめ、J I C A 中部国際センター、愛知大学名古屋キャンパス、中京テレビ放送など多種多様な施設が建ち並ぶ一方、中川運河堀止に面する水辺が広がり、緑豊かな街となっている。

中・西部は、幹線道路沿いを中心に商店やマンションが建ち並ぶ一方、昔ながらの木造家屋も多く見受けられる。この地域には歴史的・文化的資源も多く、特に中村公園一帯は、戦国時代に天下統一の偉業を成し遂げ、戦国一の出世頭と評される豊臣秀吉を祭った豊国神社、秀吉生誕にまつわる碑や竹林、その家臣で肥後熊本藩初代藩主となり、名古屋城の天守台石垣を担当した名将・加藤清正の出生地といわれる妙行寺など、二公にちなんだ史跡が残されている。

また、西の区界を流れる庄内川の堤防沿いには、枇杷島橋から横井大橋にかけての河川敷を利用した緑地が連なり、稲葉地公園や横井山緑地などの公園を加え、広範囲な緑地帯が見られる。

区内には神社・仏閣が多く、伝統的な祭も各地で開催される。代表的なものとして、豊国神社の「太閤まつり」、七所社の「きねこさ祭」、花車神明社の「名駅山車揃え」、素盞男神社の「西の市」などがあり、これらの祭が醸し出す情緒ある下町の香りは、人々の心の中にうるおいと安らぎを与えている。

このように、中村区は名古屋駅周辺の活気に満ちたまちづくりが進む一方、歴史・文化的なまちの側面もあわせ持った魅力的な区といえる。中村区では、こうした特性を活かしながら、中村区将来ビジョン（令和 6～10 年度）において「誰もが いきいきとすごせるまち 中村」を基本目標に掲げ、各種事業に取り組んでいる。

中 区 <創設 明治 41 年 4 月 1 日>

		創設当時	令和 8.4.1 現 在
	面 積 (k㎡)	6.00	9.38
	世 帯 数	34,303	75,736
	人 口	150,632	108,398
	人口密度(人/ k㎡)	25,105	11,556
	学 区 数		11



◀ 中区役所

中区は、明治 41 年 4 月 1 日の東・西・中・南の 4 区制実施により誕生した。慶長年間のいわゆる“清須越し”による城下町のほとんどは、現在の中区内に所在しており、城と碁盤割を中心に発達した名古屋 400 年の歴史は、同時に中区の歴史であるといえる。

「尾張名古屋は城でもつ」とうたわれた名古屋城は、区の北境において変わらぬ偉容を誇っている。名古屋市では、金鯱を頂く天守閣とあいまって近世武家文化を体感できる屈指の名城として再生するため、市民の皆様と力を合わせながら、世界的な文化遺産であった本丸御殿の復元を進め、平成 30 年 6 月に全面公開した。また、名古屋城下町と同時に誕生した堀川は、かつては名古屋の経済や文化の大動脈であり、名古屋発展の歴史と共にあった。現在の堀川は、「うるおいと活気の都市軸・堀川」を再びよみがえらせることを目指した堀川まちづくりが行われており、整備された納屋橋地区では、うるおいと活気の満ちた空間を創出する取り組みが行われ、まちの賑わいが生み出されている。

区の北中部地域は、名古屋城の堀割内に大規模な官庁街があり、桜通、錦通、広小路通、大津通などの主要幹線道路の沿線は、金融機関や商社などが立ち並び、名古屋の政治・経済の中核機能が集積している。

戦後復興のシンボルである 100m 道路を有する区の中央部、栄地区は、商業娯楽施設や文化施設などが集積し名古屋きっての繁華街を形成しており、魅力ある豊かな空間に人々が集い栄える交流都市を目指した取り組みが進められている。また、大須地区は下町情緒と若者文化、懐かしさと新しさが溶け合った魅力あるまちとして、人通りが絶えないにぎわいをみせている。

区南部の金山地区も、金山駅周辺まちづくり計画のもと、アスナル金山の再整備や新たな劇場の整備とあわせ、交通結節点に相応しい都市機能の集積や多様な文化芸術に触れられるウォーカブルなまちの形成を目指しており、今後ますますの発展が期待されている。

産業面では、丸の内、錦一帯の繊維雑貨卸売業、大須観音周辺の家具、既製服の卸・小売業、東別院から門前町一帯にかけての仏壇、仏具の卸・小売業、堀川、新堀川沿岸の木材商など、歴史的背景にささえられた尾張の伝統産業が点在している。

また、区の大きな特徴として、外国人の人口が約 1 割を占め市内でも突出して高い状況にあり、多文化共生のまちづくりを進め、その特徴を活かした魅力と活力にあふれるエリアとしていくことが求められている。

このように中区は、名古屋大都市圏の中心地にふさわしい商業、経済、文化、行政などの都市機能の高度集積が図られ、名古屋城下町の歴史や文化が薫るまち、国際色ゆたかなまちとして発展を続けている。

令和 6 年 5 月には、令和 10 年度までの中長期の将来計画である「中区将来ビジョン 2028」を策定した。「いつまでも輝きつづける中区をめざして」、まちづくりの主体である、区民、地域団体、学校、企業・事業者、行政が、それぞれの立場で連携・協力しながら、よりよい地域づくりをめざす「多様な主体との連携」を意識し、中区将来ビジョンに掲げた「まちの姿」の実現に向けて取り組んでいる。

昭 和 区 <創設 昭和 12 年 10 月 1 日>

	創設当時	令和 7.4.1 現 在
面 積 (k㎡)	21.73	10.94
世 帯 数	32,200	56,895
人 口	155,800	109,028
人口密度(人/k㎡)	7,169	9,966
学 区 数		11



▲昭和区役所

昭和区は、昭和 12 年の 10 区制の実施により、中区の区域であった御器所村を中心に、南区の一部区域を包含して誕生した。昭和区誕生以後の区域については、昭和 19 年の瑞穂区誕生の際の変更をはじめ、幾多の変遷があったが、特筆すべきことは、昭和 30 年に天白村を編入合併し、昭和 50 年の天白区の独立分離にともない現在の区域になっていることである。

昭和区は、市の中央部に位置し、地形は概ね平たんで、山崎川をはさみ、東部にかけてゆるやかな丘陵地帯となっている。区域は、全体的にみて良好な住宅地域で、人口密度は高く、建築物の住宅としての利用率は、全市的にみて高い数値を示している。とくに、東部の滝川、八事地区は、隣接する千種区東部、瑞穂区東部とも連なり、閑静な住宅地域を形成している。

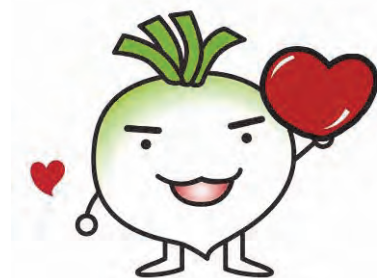
産業面では、西部の新堀川沿いが市南部臨海工業地帯に連なる工業地帯で、自動車関連の金属製品・機械器具製造業をはじめ木材・家具製造業が営まれているが、近年は工場数が減少傾向にあり、住宅・商業地としての利用も増えつつある。商業地としては、八事・桜山・滝子などに商店街がある。

区内には、名古屋大学医学部・名古屋工業大学・南山大学・中京大学・名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学のほか、高校が数多くあり、東部丘陵地帯は市内でも有数の文教地区になっている。特に八事を中心とする山手通界隈は、周辺の大学や高校に通う学生等も多く、若者の街として賑わいをみせている。また、児童福祉センター、軽費老人ホーム安田荘、高齢者就業支援センター、鶴舞中央図書館、岡谷鋼機名古屋公会堂、緑化センターなどの市民を対象とした施設が設置されている。

区民の憩いの場としては、鶴舞公園・川名公園・吹上公園・興正寺公園・隼人池公園などを有している。中でも区の北西部にある鶴舞公園には、公会堂・図書館・テラスが鶴舞（多目的グラウンド）などもあり、四季を通じて市民に親しまれている。また、東部の八事山興正寺には、昭和 57 年に国の重要文化財に指定された五重の塔があり、樹木の茂る興正寺公園には、「八事山を歩こう会」の散策コースが設定されている。川名公園においては、平成 28 年 12 月に芸術文化の拠点となる昭和文芸小劇場が開館し、さらに平成 31 年 3 月には、防災公園としての整備を完了し、防災機能も兼ね備えた公園となっている。また、特色のある憩いの施設として、鶴舞・八事緑道があり、都会のオアシスとなっている。

区内の交通機関として、西部の区境に J R 中央線が走り、東郊通には市内初の基幹バスが通っている。また、区の中央部を東西に地下鉄鶴舞線、南北に地下鉄桜通線が貫き、さらに、東部の山手通には、全国で最初の環状運転を行う地下鉄名城線も走っており、区内と都心のみならず、郊外をも結ぶ大動脈としての役割を担っている。

このように、昭和区は、これまでに築かれてきたまちづくりを活かし、豊かな緑と住宅と文教施設が調和した区として、住み続けたいなまをめざし、躍進を続けている。



昭和区マスコット
ショウちゃん

瑞穂区 <創設 昭和19年2月11日>

	創設当時	令和8.4.1 現在
面積 (km ²)	11.08	11.22
世帯数	18,590	53,825
人口	89,035	109,737
人口密度(人/km ²)	8,036	9,780
学区数		11



▲瑞穂区役所

名古屋市に市制が施行された明治22年10月当時瑞穂区域は、愛知郡の瑞穂村・弥富村・古沢村の三村に分かれていた。その後、市町村合併などの過程を経て、昭和19年2月11日の13区制施行により、昭和区と熱田区の区域の一部を併せて瑞穂区が誕生し、その後着実な発展を遂げてきた。

当地区には、古くから人間が住み、どのような生活を展開していたかは、国の指定史跡の大曲輪遺跡をはじめ、区内で発見された先史時代の多くの遺跡や出土品が豊かにこれを物語っている。

瑞穂区は市の中央部に位置し、地形は、西部の新堀川沿いや南部の山崎川、天白川沿いは平坦で、中央部には瑞穂台地が広がり、東部は、丘陵地帯となっている。西は熱田区との区界を新堀川、中央は瑞穂台地の北東部から南西部に沿って山崎川が、南東は天白区との区界を天白川が流れる。

区内西部には古くからの工場や事業所が多く、新堀川沿いや名鉄線以南には精密工業・近代窯業・金属加工業等を中心とした日本の代表的な企業や堅実な中小企業が多く立地している。

堀田通と瑞穂通に囲まれた中間地帯は、古くからの住宅が多く、商店、中小工場の混在地帯となっている。瑞穂通以東の丘陵地帯は、緑豊かで閑静な住宅地が続いている。

区内の中央には、野球場、ラグビー場、テニスコート、室内プール、体育館などを備えたパロマ瑞穂スポーツパークがあり、市のスポーツ振興の拠点として重要な役割を担っている。また、中心的施設であるパロマ瑞穂スタジアムはJリーグ名古屋グランパスのホームスタジアムであり、第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会のメイン会場にもなっている。

そして、パーク内にはさくら名所100選の地として名高い山崎川が流れ、その河畔には自然環境を生かした親水広場や四季の道が設けられ、市民の憩いの場となっている。

一方で区内には、1950年に設立された全国有数の公立総合大学である名古屋市立大学をはじめ多くの教育施設が所在している。歴史教育や文化遺産の保存・公開の場として重要な役割を担っている名古屋市博物館を有し、市内有数の文教区を誇っている。

さらに、高度先進医療機能・救急医療体制の充実した名古屋市立大学病院や、名古屋市総合リハビリテーションセンターなどの医療・福祉施設も充実している。

地下鉄桜通線や、地下鉄名城線により、市内中心部や周辺区への公共交通アクセスは利便性が高く、交通網の整備された住みやすくバランスのとれた区となっている。

令和6年5月に策定した「みずほっぺビジョン（第2期瑞穂区将来ビジョン）」では、「区民の笑顔があふれ、地域が輝くまちづくり」を基本理念に掲げるとともに、「区政運営方針」において、年度ごとの重点的な取り組みをまとめ、暮らしやすく魅力あふれるまちづくりを進めている。



瑞穂区マスコットキャラクター
みずほっぺ

熱 田 区 <創設 昭和 12 年 10 月 1 日>

	創設当時	令和 8.4.1 現 在
面 積 (k m ²)	7.08	8.20
世 帯 数	18,500	36,160
人 口	89,400	68,109
人口密度(人/ k m ²)	12,627	8,306
学 区 数		7



▲熱田区役所

熱田区は市の中央南部に位置し、昭和 12 年 10 月、10 区制の施行により誕生した。

「熱田」という地名の由来については諸説あるが、日本書紀に記述のある吾湯市（あゆち）村が語源になっている、との説が有力となっている。

熱田区は、中川、港、南区とともに、南部工業地帯に含まれており、ガス、自動車、精密機械、鉄道車両などの大規模事業所のほか、中小規模の事業所が数多く存在する。製造業では、堀川、新堀川沿いに製材工場や機械器具工場など、特色ある工場が建ち並んでいた。さらに、かつては魚市場があったことから食料品製造業者も多くあったが、近年、区内の工場や従業員数は減少している。一方、名古屋市工業研究所やファインセラミックスセンター、市民の台所をあずかる中央卸売市場本場など、工業・商業を支える大切な施設も存在する。

当区の象徴ともいえる熱田神宮は「あつたさん」と親しまれ、神話や伝説にあふれ、年間 700 万人を超える参拝客が訪れる。毎年 6 月 5 日に熱田神宮で行われる「熱田まつり（尚武祭）」は、「まきわら船」が取りやめになってからも、「献灯まきわら」が神宮の南・東・西の鳥居前に組み立てられ、夕刻からともの幻想的な明かりが祭りのムードを一層盛り上げている。

区内には熱田神宮のほか、断夫山古墳、白鳥古墳、高蔵貝塚などの遺跡や、江戸時代の面影を残す宮の渡し跡の常夜灯、中世の東西交通の要衝であったことをしのばせる道標、源頼朝の誕生の地といわれる誓願寺を始めとする由緒ある神社仏閣など、数多くの歴史的・文化的遺産が点在している。

区の中心部には、400 年程前に開削され城下町名古屋の発展を支えてきた堀川が流れる。平成元年のデザイン博覧会で、堀川沿いの貯木場を開発した白鳥会場はメイン会場となった。現在は、兩岸の遊歩道や親水施設の整備がなされ、名古屋国際会議場、白鳥公園、白鳥庭園と一体となった快適ゾーンを創りあげ、名古屋のコンベンションの中心、区民の憩いの場となっている。

平成 22 年 10 月には、名古屋国際会議場で生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が開催され、平成 26 年 10 月には、持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議が開催された。

区北部金山地区は、平成元年に金山総合駅の完成、平成 16 年 10 月の地下鉄名城線の環状化、平成 17 年 2 月の中部国際空港の開港等により、広域交通の結節点としての重要性がますます高まるとともに、「歴史と文化のまち」熱田区の玄関口として発展してきている。

平成 13 年 10 月に J R 熱田駅南に完成した熱田区役所等複合施設には、区役所、保健センター、図書館、在宅サービスセンター、文化小劇場が設置されており、暮らしと文化の拠点として多くの市民に利用されている。

日比野、白鳥地区においては、平成 19 年 4 月に名古屋学院大学が移転開学し、令和 2 年 10 月に熱田区役所と包括連携協定を締結して、熱田の魅力を一体的に配信する「熱田ブランド+（プラス）」を公開した。また、平成 25 年 11 月には名古屋高速道路（高速 4 号東海線六番北～木場間）が開通するなど、大きく変貌を遂げつつある。

平成 29 年 10 月には区制 80 周年を迎え、「熱田ブランド宣言」を行い、「あつた人（びと）」の誇りや想いを次世代へとつなぎ、熱田の魅力を発信していく。

中 川 区 <創設 昭和 12 年 10 月 1 日>

		創設当時	令和 8. 4. 1 現 在
	面 積 (k m ²)	21. 15	32. 02
	世 帯 数	15, 100	104, 712
	人 口	73, 000	216, 351
	人口密度(人/ k m ²)	3, 451	6, 757
	学 区 数		24



▲中川区役所

中川区は名古屋市西南部に位置し、昭和 12 年 10 月の 10 区制実施によって中区と南区の一部をあわせて誕生した。その後、昭和 30 年には富田町を編入して現在の区域となった。東西に長く、面積は市域の約 10% を占め、令和 8 年 4 月 1 日現在、世帯数及び人口は緑区に次いで市内第 2 位である。

区内には区名の由来である中川運河や庄内川、新川など多くの河川と庄内用水、宮田用水が流れ、地勢は平坦である。

中川区は、東部の商業・住宅地域および中川運河を中心とする工業地域と、中部・西部にかけての住宅・農業地域とに大別することができる。

区の東部は、早くから市街化がすすみ尾頭橋、西日置の商店街を中心に栄え、中川運河沿いには鉄鋼、機械器具、金属製品、木製品などの製造業が発展してきた。中部は、地下鉄などの公共交通機関の整備に伴い、区役所はじめ官公署も集中し、優良な住宅地、商業地として発展している。また、平成 16 年開業のあおなみ線が区の中央を縦断し、周辺地域の活況を呈している。

西部は、市内屈指の農業生産高を誇る豊かで広大な農地がひらけていたが、近年は区画整理事業による宅地化がすすみ、さらに高層住宅の建設も盛んになっている。その一方で、昔ながらの田園風景も残り、立地条件を十分に生かした野菜栽培などが行われている。

区内の史跡としては尾張四観音の一つ荒子観音寺があり、国の重要文化財で市内最古の木造建築物「多宝塔」のほか 1250 余体の円空仏が収蔵されている。近くには戦国武将前田利家公の居城跡（荒子城址）と言われる富士権現天満宮などがあり、利家公ゆかりの地を巡るウォーキングルート「犬千代ルート」の見どころとなっている。また富田町の正明寺には、今日の七宝焼の元祖といわれている梶常吉の碑があり、初期の作品（香炉、念珠）が収蔵されている。

伝統あるまつりとしては、夏に下之一色町で「一色まつり（浅間社）」が行われる。以前は巻わら船 3 艘を新川に浮かべたが、現在は 300 個近くの提灯を飾り巻わら屋台 3 台を広場に設置して行っている。また、牛立町では牛頭天王車と呼ばれる山車が引かれる「天王まつり」が行われる。秋には戸田で郷土色豊かな「戸田まつり」が行われる。戸田は五つの割から成り立ち、まつりでは各割の神社が保存する山車が飾りつけられ、からくり人形の芸が披露される。一方、大規模な商業まつりとして夏に尾頭橋公園一帯で「金魚まつり」が長く行われている。

スポーツ施設としては、柔剣道場・温水プールなどを備えた露橋スポーツセンターのほか、卓球等が利用可能な体育室を備えた富田北プールなどがあり、市民のスポーツレクリエーション活動に大いに利用されている。

現在は、道路や橋などの整備、治水・浸水対策の強化などがすすめられる一方、中川運河では親水性の高い空間の形成につとめ、住みやすく・人にやさしい・魅力あふれるまちをめざしている。



▲富田支所



▲中川区マスコットキャラクター
ナッピー

港 区 <創設 昭和 12 年 10 月 1 日>

		創設当時	令和 8.4.1 現在
	面 積 (k m ²)	24.53	45.64
	世 帯 数	8,500	61,328
	人 口	41,300	131,985
	人口密度(人/ k m ²)	1,683	2,892
	学 区 数		20



▲港区役所

港区は市の南西部に位置し、昭和 12 年 10 月の 10 区制の実施により、旧南区から分区独立し誕生した。

区名の由来について「名古屋南部史」によれば、「旧南区の中、臨港地帯と大正 10 年に編入せる旧小碓村の地域を以ってし、港に臨んでいるので港区と称す。」と記されている。

分区独立後、昭和 30 年 10 月に旧海部郡南陽町が編入されたこと、港湾開発等により公有水面の埋立てが推進されたことなどで、現在では本市において最大の面積を有する行政区となっている。

港区は、名古屋市で唯一伊勢湾に面しており、国際都市名古屋の海の玄関としての名古屋港を擁し、臨海部一帯は重化学工業を中心とする工業地帯を形成している。一方、区西部には、本市最大の米穀生産地帯である農業振興地域があり、大都市の中にものどかな田園風景を見ることができる。

名古屋港は、明治 40 年 11 月 10 日の開港以来中部圏を支える港として多くの国・地域と結ばれ、「ものづくり中部」の経済を支え、総取扱貨物量、貿易黒字額、自動車輸出台数は全国の港の中で第 1 位（平成 30 年）と世界有数の貿易港となっている。また、市民の憩いの広場として、子どもたちの夢をはぐくむ文化・情報溢れる明るい港として大きく発展している。

金城ふ頭には、国際展示場（ポートメッセなごや）があり、各種の催し物が開催されている。また、「モノづくり」や「産業技術」をテーマに海や港を活用し、にぎわいのある人々の交流拠点を創出する「モノづくり文化交流拠点」の整備も進められ、平成 23 年 3 月に開館したリニア・鉄道館は、子供から大人まで楽しめるテーマパークとして人気を集めている。そして、区制 80 周年を迎えた平成 29 年にはブロック玩具の世界的テーマパーク「レゴランド」が開園した。また、平成 30 年に港明地区においては「みなとアクルス（低炭素モデル地区）」が街びらきされた。

ガーデンふ頭は、海洋博物館を備えたポートビルや南極観測船ふじ、世界最大級のメインプールでイルカのダイナミックなパフォーマンスが楽しめる名古屋港水族館があり、海洋文化・レクリエーションの拠点となっている。

毎年 7 月には、名古屋港の発展を祈念して「名古屋みなと祭」が開催され、花火大会・区民総おどり・神楽揃え・パレードなどが行われ、毎年多くの人々でにぎわう夏の一大風物詩として広く市民に親しまれている。

港区には、名古屋市全体の農地面積の 41%、381ha の農地が広がり、そのうち水田の面積が 81%と大部分を占め、米作りが盛んである。また、その水田の一部では、ブランド米「陽娘（ひなたむすめ）」として、あいちのかおりとコシヒカリが栽培されており、「陽娘」を利用した加工品づくりにも積極的に取り組んでいる。

また、市民・企業・行政の協働により豊かな森を育てる「なごや西の森づくり」が行われている戸田川緑地には、四季折々の花が楽しめる農業文化園や、親子で楽しめるとだがわこどもランドがあり、多くの市民に利用されている。また、庄内川・新川・日光川河口に位置する伊勢湾奥部で唯一残った藤前干潟は、日本有数の渡り鳥渡来地として国際的にも重要な湿地であり、そこに生息、生育する動植物の保全を目的とした「ラムサール条約」に登録されている。

港区は、国際色豊かな気風を備えながら、産業活動と住民生活との調和のとれた環境の中で、繁栄する希望に満ちあふれた街へと一層の発展を続けている。

南 区 <創設 明治 41 年 4 月 1 日>

		創設当時	令和 8.4.1 現 在
	面 積 (k m ²)	20.36	18.46
	世 帯 数	8,732	66,487
	人 口	38,846	131,963
	人口密度(人/ k m ²)	1,908	7,149
	学 区 数		18



▲南区役所

南区は、名古屋市に初めて区制が施行された明治 41 年 4 月に誕生した。呼続町・笠寺村などの編入や数次にわたる区域変更を経て現在に至っているが、その区域の大半は、その昔、年魚市潟や鳴海潟と呼ばれる干潟地であった。中世には製塩が盛んで、前浜塩と呼ばれる良質の塩を産し、遠く信州方面まで運ばれていたが、新田開発が進み、塩田は消滅した。当時の源兵衛・戸部下などの新田の名称は、現在、地名としてその名残をとどめている。

かつては農村としての色彩が強かったが、現在は J R 東海道本線、名鉄名古屋本線・常滑線、地下鉄桜通線、国道 1 号線・23 号線、名古屋環状線、名古屋都市高速道路などの交通網が区内を縦横に走り、区の中心部を縦断する国道 1 号線を境に、東側の丘陵地帯には閑静な住宅地域が広がり、西側は鉄鋼、金属、機械、化学を中心とする工業地域となり、港区とともに南部臨海工業地帯を形成している。商店街は区内各地に点在し、最近ではマンションなど高層住宅の建設も数多く進むなど住宅、工業、商店街の混在したまちとして、産業都市・名古屋の一翼を担い、「産業の区」として発展を遂げている。

産業の発展の一方で、尾張四観音の一つである笠寺観音や、見晴台遺跡、粕畑貝塚、下新町遺跡といった縄文・弥生時代の遺跡、市内に 9 か所あった一里塚のうち、唯一残存する笠寺の東海道一里塚があり、文化的・歴史的に由緒ある場所も多い。こうした文化や歴史の再発見、区民のふれあい・出会いの場として、南区史跡散策路が 5 コース設定されている。

南区には、呼続公園・道徳公園などの公園も多く、大江川緑地・中井用水緑道とともに区民の憩いの場となっている。スポーツ施設では、J R 笠寺駅西に、わが国有数の屋内スポーツ拠点となる NGK スポーツプラザがあり、クロコくんホール・クロコくんアリーナなどの施設では、国際競技大会や市民のスポーツ大会、コンサートなど各種イベントが開催されており、スポーツ情報・資料を収集・提供するスポーツ振興会館と合わせ、市内屈指のスポーツ基地となっている。また、千竈通二丁目に文化活動の拠点となる文化小劇場と図書館があり、教育・文化・スポーツの振興に取り組んでいる。

この地域は、伊勢湾台風により大きな被害を受けたため、災害発生時に地域の人が助け合うことにより被害が軽減されるよう、日頃の地域防災活動を支援して、災害に強いまちづくりをすすめている。また、「南区区民まつり」などの事業を通じて区民の「ふるさと意識」を高め、心の豊かさとぬくもりが感じられるまちづくりをすすめている。

福祉の面では、特別養護老人ホームを始め身体障害者や知的障害者の授産施設、在宅障害者や高齢者のデイサービス施設が整備されており、また、区役所には在宅サービスセンター・南部いきいき支援センターが併設され、福祉の拠点となっている。

南区では、これまで幾多の災害を乗り越える中で、地域が大切に育ててきた人情深い心のあたたかさを生かし、今後も区民と協働して「こころのかよう、あたたかいまち南区」をめざしていく。

守 山 区 <創設 昭和 38 年 2 月 15 日>

		創設当時	令和 8.4.1 現 在
	面 積 (k㎡)	34.01	34.01
	世 帯 数	17,227	78,394
	人 口	67,786	175,653
	人口密度(人/ k㎡)	1,993	5,165
	学 区 数		21



▲守山区役所

守山区は、昭和 38 年 2 月 15 日、守山市が名古屋市と合併し、本市 13 番目の区として誕生した。

名古屋市北東部に位置し、南に矢田川、北に庄内川を配する地形で、区の東北端の東谷山（標高 198.3m・名古屋市で一番標高が高い）から西南に向かって連なる洪積層台地の丘陵地域が区の相当部分を占めている。また、二つの河川に沿った地域には、数多くの遺跡が見られるように、肥よくな農地が育てられ、古くからこの地域の発展を促してきた。

このような地形・環境は、清新な空気と豊かな緑をはぐくみ、住宅地としての好条件となっている。市内第 3 位の人口を有し、名古屋市有数のベッドタウンとして目覚ましい発展をみせているとともに、社会福祉施設の立地条件に適し、また文教地区としても生かされている。

区の西北部一帯は、名古屋北部の内陸型工業地帯の一部を構成し、また、矢田川、庄内川に沿った準工業地帯には、軽工業を主とした工場などが点在している。

中心部は、近隣商業地帯を配して住宅地を形成している。小幡駅前地区においては、再開発ビル『アクロス小幡』に併設される在宅サービスセンターは「誰もが住みなれた家や地域でいつまでも安心して暮らす」ことができるよう、様々な地域福祉活動を始め、デイサービス事業・介護保険事業・訪問看護ステーション等を行う福祉の拠点となっており、また、守山文化小劇場は文化・芸術の発信地となっている。

北東部には、市民の憩いの場であるスポーツ・レクリエーション施設が集まっている。東谷山フルーツパークでは世界の珍しい熱帯果樹や千本のしだれ桜など様々な植物を見られることに加え、平成 30 年 12 月にレモン園も開設された。また、庄内川を見下ろす丘陵地には、尾張四観音の一つである龍泉寺があり、その仁王門は国の重要文化財に指定されている。この龍泉寺の麓には約 227 ヘクタールにおよぶ小幡緑地公園があり、園内にはたくさんの野鳥が生息するなど豊かな自然を楽しむことができる。また、公園に隣接している守山スポーツセンターは、志段味スポーツランドと併せて区内のスポーツ拠点施設として多くの市民に利用され、活気を生み出している。

一方、21 世紀の都市基盤づくりとして、特定土地区画整理事業により良好な宅地開発を進めるとともに、志段味ヒューマン・サイエンス・タウン整備事業が進められている。特に、なごやサイエンスパークでは先端技術連携リサーチセンターなどの研究施設や独立行政法人産業技術総合研究所中部センターなどの公的研究機関が集積し、テクノヒル名古屋においては研究開発型企業の立地が進んでいる。さらに、循環型社会に向けたモデル住宅が建設され、環境に配慮した住宅の取り組みの普及を促している。

平成 13 年 3 月にゆとりーとラインが開通し、志段味地区住民の通勤通学や、東谷山フルーツパーク、志段味スポーツランド、なごやサイエンスパーク等への交通手段として、多くの市民の利用に供されている。そのほか、平成 30 年 3 月には東名高速道路の守山パーキングエリアにスマート I C が開通し、高速道路へのアクセス性の向上、北東部のまちづくりの推進・広域交流の活性化が期待されている。また、国史跡、志段味古墳群を保存活用しながら、区画整理によるまちづくりと融合した賑わいの創出を目指し、「歴史の里」の整備が進められ、平成 31 年 4 月に「体感！しだみ古墳群ミュージアム（SHIDAMU）」がフルオープンとなった。令和 3 年 4 月には上志段味小学校が開校、同年 7 月には中志段味に大型商業施設が開業され、更に令和 8 年 4 月には上志段味中学校が開校されるなど、志段味地区は官民ともに注目されている。

守山区では、こうした区内各地域の特色や魅力を活かした発展を続けている。

緑 区 <創設 昭和 38 年 4 月 1 日>

	創設当時	令和 8. 4. 1 現 在
面 積 (k㎡)	26. 30	37. 91
世 帯 数	9, 030	104, 961
人 口	41, 501	247, 125
人口密度(人/ k㎡)	1, 578	6, 519
学 区 数		28



▲緑区役所

緑区は、昭和 38 年に愛知郡鳴海町が本市と合併し、その区域をもって市内 14 番目の行政区として誕生し、翌年 12 月に、知多郡有松町と大高町を加え面積では本市 2 番目の区域を有する区となった。

その後、区画整理事業の進展により住宅地としての開発もめざましく、それに伴って人口も急速に増加し、平成 10 年 4 月には 20 万人を突破した。さらに、大高や有松地区の区画整理事業の進展、J R 南大高駅の開業、地下鉄桜通線の徳重延伸、名古屋環状 2 号線の開通など都市基盤の整備が進み、平成 27 年 7 月には、人口も 24 万人を超え、本市で最も人口の多い区となっている。

平成 22 年 5 月には、徳重支所のほか、保健センター分室、徳重図書館、徳重地区会館、区民プラザを併設する“ユメリア徳重”がオープンし、緑区東部の拠点となっている。

緑区は、古い時代の遺跡や史跡など歴史的文化資産にも恵まれている。松尾芭蕉が何度も訪れた東海道鳴海宿や白壁、格子造りの有松の町並みの他、若き織田信長が今川義元を打ち破った桶狭間の戦いのあった桶狭間などは有名である。桶狭間古戦場公園には、平成 22 年に戦いから 450 年を記念して、「近世の曙」と名付けられた信長、義元の銅像が建立され、また、有松の町並みは、平成 28 年 7 月に国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、区を代表する観光スポットとなっている。

緑区の伝統的産業「しぼり」は、東海道の宿場町であった鳴海と茶屋集落であった有松とに興り、国内はもとより広く海外にもその名を知られ、「しぼり」の資料を展示した有松・鳴海絞会館には絶えず観光客が訪れている。さらに令和元年 5 月には「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地～藍染が風にゆれる町 有松～」が日本遺産として本市で初めて認定された。また、古くから良質の水に恵まれた大高では、酒造業が栄え現在も酒蔵としてこの地で酒造を続けている。このような伝統産業の他に、露地栽培の野菜が栽培され、地産地消をめざし市内各市場に供給している。

平成 22 年 5 月には、こうした貴重な歴史文化資産を発掘、活用し、緑区をおもてなしのこころにあふれ、魅力ある観光地域として発展させることを目的として、「緑区観光推進協議会」を発足させ、官民が一体となって広く P R に努めている。

緑区では、「緑区将来ビジョン」に「笑顔のあふれるまちをめざして」を基本目標として掲げ、区民の意見を取り入れて年度ごとに定める「みどりっちプラン（区政運営方針）」により、安心・安全で快適なまちづくりを推進している。

<区名の由来>

緑豊かな丘陵地帯であり住宅地として注目されているなどの理由で、「緑区」と命名された。

江戸時代に緑区を 4 度訪れた松尾芭蕉が詠んだ句“はつ秋や海も青田のひとみどり”にちなんだとも言われている。



▲緑区マスコットキャラクター
みどりっち

名 東 区 <創設 昭和 50 年 2 月 1 日>

		創設当時	令和 8.4.1 現 在
	面 積 (km ²)	18.59	19.45
	世 帯 数	26,918	78,306
	人 口	81,228	161,508
	人口密度(人/km ²)	4,369	8,304
	学 区 数		19



▲名東区役所

名東区は、昭和 50 年 2 月 1 日に千種区から分区独立して誕生した。市の東部に位置し、地形は南北に長く、整然と区画整理されたなだらかな丘陵地帯で、静かな環境に恵まれた市内屈指の良好な住宅地となっている。その区域の大部分は、昭和 30 年 4 月に本市と合併し、千種区に編入された旧愛知郡猪高村を母体としている。令和 7 年 2 月 1 日には区制 50 周年を迎えた。

区の名称は、「名古屋市の東部に位置し、区内に東名高速道路名古屋インターチェンジを有し、名古屋の東玄関にふさわしい名称」ということから『名東区』と名付けられた。

かつては、緑豊かな丘陵地帯に数多くのかんがい用ため池が点在し、畑、稲作に加えて養蚕や葉煙草も栽培され、のどかな田園地帯であった。昭和 30 年代後半から宅地造成が区内各地で進み、現在では区域の 80% 余に及ぶ土地区画整理事業が終了した。開発に伴って自然が失われつつある中でも、昔のままの自然林を残す牧野ヶ池緑地、猪高緑地といった広大な緑地があるほか、区画整理事業により生み出された都市公園等が 100 ヶ所余設置され、緑に恵まれた魅力的な住環境をつくりだしている。

交通面では、区の中央部を東西に横断する地下鉄東山線が区内の重要な公共交通機関として利用されている。また、東名阪自動車道が平成 8 年 5 月には東名高速道路、平成 15 年 3 月には名古屋都市高速道路 2 号東山線とそれぞれ直結し、国道 302 号線などの幹線道路も整備され、平成 23 年 3 月には名古屋第二環状自動車道（名古屋南 JCT～高針 JCT 間）が開通するなど、さらに交通の利便性が高まっている。特に地下鉄東山線終点の地下鉄藤が丘駅周辺は、郊外の落ち着きとファッショナブルな都心の機能をあわせ持ったまちづくりが進められ、平成 17 年には、本格的な実用路線としては、日本初の磁気浮上式リニアモーターカーを使用した東部丘陵線（愛称＝リニモ）が開通し、近隣の自治体との交通結節点として、商業施設が集積し、区内で最もにぎわいのある地域となっている。

市民利用施設は、名東スポーツセンター、上社レクリエーションルーム、テニスコート等のスポーツ施設や、文化小劇場、コミュニティセンターなどがあり、これらの施設では、若者から高齢者まで各層の区民により、さまざまなスポーツ・文化活動が活発に行われている。

また、古くから史跡・文化財も区内に点在しており、民族資料として豊年を祝う氏神祭礼「馬の塔（おまんこ）」に使われる「大鳥毛・馬標と馬具」、織田信長に仕えた戦国武将柴田勝家の誕生の地「明徳寺」に祀られる「十王像十四体」、猪子石地区には地名の由来となった猪の子に似た自然石「猪子石」などが保存されている。また、無形民俗文化財として東一社・高針地区の「鷹羽検藤流棒の手」「高針棒の手」が伝承されている。

平成 8 年 3 月には、名東区の文化活動の振興のため「名東区文化協会」が設立され、総合芸術・芸能祭や美術展の開催など区内の文化事業の推進を積極的に行っている。また、設立 10 周年を記念して公募により「名東のうた」の制作に取り組み、平成 19 年 5 月に「わがまち名東」が発表された。

さらに平成 8 年から 5 月（英語でメイ）10 日（数字でトオ）にちなんで、5 月 10 日を「名東の日」と定め、平成 11 年からは、5 月 7 日から 13 日の 1 週間を「名東ウィーク」として、区内各所で多彩なイベントが開催されている。

令和 6 年 5 月に策定したナデシコビジョン 2028（第 2 期名東区将来ビジョン）において、人と人の絆、地域の絆を重視した「つながるまち、ひろがるまち名東」を基本理念に、めざすまちの将来像を掲げ、魅力と活気あふれるまちづくりを進めている。

天 白 区 <創設 昭和 50 年 2 月 1 日>

	創設当時	令和 8.4.1 現在
面 積 (k㎡)	21.79	21.58
世 帯 数	27,426	79,081
人 口	87,931	162,001
人口密度(人/ k㎡)	4,035	7,507
学 区 数		17



天白区役所

天白区は、昭和 50 年 2 月に昭和区から分区独立し、令和 7 年 2 月 1 日に区制 50 周年を迎えた。その区域は、昭和 30 年 4 月に本市と合併し昭和区に編入された、愛知郡天白村のほぼ全域を母体としている。天白村は、明治 39 年 5 月に、島野・弥富・植田・平針の 4 村を廃し成立した。

区名の由来は、天白村内を北東から南西へ流れる天白川にちなんで名付けられたといわれ、天白川の名は、その下流に天白社が祀られていたことによるといわれている。

地域では現在も伝統芸能や史跡が伝承されており、名古屋市の無形民俗文化財に指定されている「平針木遣り音頭」もその一つである。遠く慶長の昔、徳川家康が名古屋城を築城するにあたって、平針の農民が木材や石材などの運搬に活躍し、その時に歌われた木遣り音頭が始まりと伝えられている。

天白区は、昭和 53 年 10 月の地下鉄鶴舞線、平成 6 年 3 月の地下鉄桜通線の開通に伴って中高層住宅が立ち並ぶとともに、平針・原・植田の地下鉄各駅のターミナルを拠点に店舗や企業が展開し、住宅地域・商業地域の両面で発展してきた。さらに平成 23 年 3 月には地下鉄桜通線が延伸されたことで、区南部の交通アクセスが大きく向上した。

区内には市内有数の農地があり、あいちの伝統野菜に指定されている八事五寸にんじんを始め、くりあじかぼちゃ・たまねぎ・ばれいしょ・梅などが出荷されている。

区東部にある名古屋市農業センターdela ファームは、「野菜と家畜」をテーマにした農業公園で、「市民と農の架け橋」としての機能を持ち、地産地消や名古屋コーチンの種鶏の飼育研究・消費宣伝などの事業を実施している。センター内にはふれあい動物園や BBQ 広場などの施設があり、市民に親しまれている。

区のほぼ中央には、区役所をはじめ、環境事業所・土木事務所などの行政機関があり、区行政の中心的役割を担っている。福祉会館・児童館・文化小劇場・生涯学習センター・図書館・スポーツセンターなどの施設では、さまざまな文化活動が活発に行われている。また、現在 17 学区中 15 学区に整備されているコミュニティセンターは、地域の活動やふれあいの拠点となっている。また、東南部には愛知県運転免許試験場があり、運転免許の取得・更新のため多くのドライバーが利用している。

このように都市型の景観が見られる一方で、区内には多くの緑が残されており、自然との調和のとれた生活環境が溢れている。天白川河川敷を利用した「天白川緑地」や、ヒメボタルが見られる相生山緑地の「オアシスの森」は自然の中を散策でき、「天白公園」は幅広い世代の憩いの場となっている。東南部には、農業センターを含む約 60 ヘクタールの豊かな自然が残る荒池緑地が広がり「荒池なごやかファーム構想」により、市民と協力して里山の風景を大切にした整備を進めている。

天白区は、恵まれた自然環境と地域の絆を活かし、区民とともに、ぬくもりとやすらぎ、そして魅力に満ちた、誰からも愛されるまちづくりを目指している。



▲天白区マスコットキャラクター
かぼっち